

法学研究科 法学研究科 ( 2015年度入学生 )

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■法学系科目 ■専門科目	知的財産法II 木村 友久	集中	1	2	1
		1年			
■政策科学系科目 ■専門科目	現代政治論II 松尾 哲也	集中	1	2	2
		1年			
	都市環境論II 中園 哲	2学期	1	2	3
		1年			
	NPO・社会起業論II 永田 賢介	1学期	1	2	4
	1年				
都市計画論II 山脇 直祐	1学期	1	2	5	
	1年				

法学研究科 法学研究科 ( 2015年度入学生 )

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専攻共通科目	法政総合演習	1学期	1	2	6
	法学研究科担当教員	1年			
■法律学系科目 ■専門基礎科目	法律文献調査	1学期	1	2	7
	法律学科教員	1年			
■専門科目	憲法AIII	1学期	1	2	
	休講	1年			
	憲法AIV	2学期	1	2	
	休講	1年			
	憲法BIII	1学期	1	2	8
	中村 英樹	1年			
	憲法BIV	2学期	1	2	9
	中村 英樹	1年			
	行政法AIII	1学期	1	2	
	休講	1年			
	行政法AIV	2学期	1	2	
	休講	1年			
	行政法BIII	1学期	1	2	10
	岡本 博志	1年			
	行政法BIV	2学期	1	2	11
	岡本 博志	1年			
	行政法CIII	1学期	1	2	
	休講	1年			
	行政法CIV	2学期	1	2	
	休講	1年			
	民法AIII	1学期	1	2	12
	矢澤 久純	1年			
	民法AIV	2学期	1	2	13
	矢澤 久純	1年			
	民法BIII	1学期	1	2	14
	福本 忍	1年			

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■法律学系科目 ■専門科目	民法BIV	2学期	1	2	15
	福本 忍	1年			
	民法CIII	1学期	1	2	16
	小野 憲昭	1年			
	民法CIV	2学期	1	2	17
	小野 憲昭	1年			
	民法DIII	1学期	1	2	18
	休講	1年			
	民法DIV	2学期	1	2	19
	休講	1年			
	商法AIII	1学期	1	2	18
	今泉 恵子	1年			
	商法AIV	2学期	1	2	19
	今泉 恵子	1年			
	商法BIII	1学期	1	2	20
	高橋 衛	1年			
	商法BIV	2学期	1	2	21
	高橋 衛	1年			
	民事訴訟法AIII	1学期	1	2	22
	小池 順一	1年			
民事訴訟法AIV	2学期	1	2	23	
小池 順一	1年				
民事訴訟法BIII	1学期	1	2	24	
休講	1年				
民事訴訟法BIV	1学期	1	2	25	
休講	1年				
刑法AIII	1学期	1	2	24	
土井 和重	1年				
刑法AIV	2学期	1	2	25	
土井 和重	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■法律学系科目 ■専門科目	刑法BIII 大杉 一之	1学期	1	2	26
		1年			
	刑法BIV 大杉 一之	2学期	1	2	27
		1年			
	刑事訴訟法III 水野 陽一	1学期	1	2	28
		1年			
	刑事訴訟法IV 水野 陽一	2学期	1	2	29
		1年			
	刑事学III 朴 元奎	1学期	1	2	30
		1年			
	刑事学IV 朴 元奎	2学期	1	2	31
		1年			
	労働法III 石田 信平	2学期	1	2	32
		1年			
	労働法IV 石田 信平	2学期	1	2	33
		1年			
	社会保障法III 津田 小百合	1学期	1	2	34
		1年			
	社会保障法IV 津田 小百合	2学期	1	2	35
		1年			
国際法III 二宮 正人	1学期	1	2	36	
	1年				
国際法IV 二宮 正人	2学期	1	2	37	
	1年				
日本法制史III 山口 亮介	1学期	1	2	38	
	1年				
日本法制史IV 山口 亮介	2学期	1	2	39	
	1年				
法哲学III 重松 博之	1学期	1	2	40	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■法律学系科目 ■専門科目	法哲学Ⅳ 重松 博之	2学期	1	2	41
		1年			
	法律実務特講Ⅱ 末廣 清二 他	1学期	1	2	42
		1年			
■特別研究科目	憲法特別研究Ⅱ 中村 英樹	1・2学期 (ペア)	1	4	43
		1年			
	行政法特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	民法特別研究Ⅱ 矢澤 久純	1・2学期 (ペア)	1	4	44
		1年			
	民法特別研究Ⅱ 小野 憲昭	1・2学期 (ペア)	1	4	45
		1年			
	商法特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	民事訴訟法特別研究Ⅱ 小池 順一	1・2学期 (ペア)	1	4	46
		1年			
	刑法特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	刑事訴訟法特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	刑事学特別研究Ⅱ 朴 元奎	1・2学期 (ペア)	1	4	47
		1年			
	労働法特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	社会保障法特別研究Ⅱ 津田 小百合	1・2学期 (ペア)	1	4	48
		1年			
	国際法特別研究Ⅱ 二宮 正人	1・2学期 (ペア)	1	4	49
		1年			
	日本法制史特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■法律学系科目 ■特別研究科目	法哲学特別研究II 重松 博之	1・2学期 (ペア)	1	4	50
		1年			
■特定課題研究科目	私法領域特定課題研究II 小野 憲昭 他	1・2学期 (ペア)	1	4	51
		1年			
	公法領域特定課題研究II 重松 博之 他	1・2学期 (ペア)	1	4	52
		1年			
■政策科学系科目 ■専門基礎科目	政策調査法 政策科学科教員	1学期	1	2	53
		1年			
■専門科目	政治学III 中井 遼	1学期	1	2	54
		1年			
	政治学IV 中井 遼	2学期	1	2	55
		1年			
	行政学III 森 裕亮	1学期	1	2	56
		1年			
	行政学IV 森 裕亮	1学期	1	2	57
		1年			
	政治思想史III 大澤 津	1学期	1	2	58
		1年			
	政治思想史IV 大澤 津	2学期	1	2	59
		1年			
	途上国開発論III 三宅 博之	1学期	1	2	60
		1年			
	途上国開発論IV 三宅 博之	2学期	1	2	61
		1年			
産業政策論III 田代 洋久	1学期	1	2	62	
	1年				
産業政策論IV 田代 洋久	2学期	1	2	63	
	1年				
公共政策論III 檜原 真二	1学期	1	2	64	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■政策科学系科目 ■専門科目	公共政策論Ⅳ 檀原 真二	2学期	1	2	65
		1年			
	福祉政策論Ⅲ 狭間 直樹	1学期	1	2	66
		1年			
	福祉政策論Ⅳ 狭間 直樹	2学期	1	2	67
		1年			
	環境政策論Ⅲ 申 東愛	1学期	1	2	68
		1年			
	環境政策論Ⅳ 申 東愛	2学期	1	2	69
		1年			
	政策評価論Ⅲ 横山 麻季子	1学期	1	2	70
		1年			
	政策評価論Ⅳ 横山 麻季子	2学期	1	2	71
		1年			
比較政治経済学Ⅲ 坂本 隆幸	1学期	1	2	72	
	1年				
比較政治経済学Ⅳ 坂本 隆幸	2学期	1	2	73	
	1年				
自治体政策論Ⅱ 中道 壽一	2学期	1	2	74	
	1年				
■特別研究科目	政治学特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
	行政学特別研究Ⅱ 森 裕亮	1学期 (ペア)	1	4	75
		1年			
	政治思想史特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4	
		1年			
途上国開発論特別研究Ⅱ 三宅 博之	1・2学期 (ペア)	1	4	76	
	1年				
産業政策論特別研究Ⅱ 休講	1・2学期 (ペア)	1	4		
	1年				

法学研究科 法学研究科 ( 2015年度入学生 )

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		1年			
■政策科学系科目 ■特別研究科目	公共政策論特別研究II 榎原 真二	1・2学期 (ペア)	1	4	77
		1年			
	福祉政策論特別研究II 狭間 直樹	1・2学期 (ペア)	1	4	78
		1年			
	環境政策論特別研究II 申 東愛	1・2学期 (ペア)	1	4	79
		1年			
政策評価論特別研究II 横山 麻季子	1・2学期 (ペア)	1	4	80	
	1年				
■特別研究科目	比較政治経済学特別研究II 坂本 隆幸	1・2学期 (ペア)	1	4	81
		1年			
	地域政策特定課題研究II 榎原 真二 他	1・2学期 (ペア)	1	4	82
		1年			
	比較政策特定課題研究II 三宅 博之 他	1・2学期 (ペア)	1	4	83
		1年			



# 知的財産法II【昼】

担当者名 /Instructor 木村 友久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、知的財産法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会のソフト化高度化に伴い知的財産のもたらす価値が増大している。知的財産を概観すると、「思想または感情の創作物に関わるもの」「製品等の開発販売過程で創作されるもの」「営業上の信用が化体されているもの」の三類型に区分されるが、知的財産法IIは「思想または感情の創作物に関わるもの」と「営業上の信用が化体されているもの」を保護する著作権法・不正競争防止法を重点的に扱う。なお、コンテンツビジネス実務に対応できる様に、契約実務も含める。

## 教科書 /Textbooks

「著作権判例百選（第五版）」有斐閣

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

半田正夫著「著作権法概説」一粒社  
作花文雄「詳解著作権法」ぎょうせい

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 著作権法概論～知的財産権と著作権制度の概要、各国の著作権制度
2. 著作権の保護客体I～著作物の定義と種類、二次的著作物および編集著作物
3. 著作権の保護客体II～プログラムの著作物、データベースの著作物
4. 著作権の保護客体III～キャラクター、タイプフェイス等
5. 著作者～著作者、法人著作、共同著作、映画の著作物
6. 著作者人格権～公表権、氏名表示権、同一性保持権、著作者の死後の扱い
7. 著作権（著作財産権）I～著作財産権概説、複製権、上演権・演奏権、上映権
8. 著作権（著作財産権）II～公衆送信権、その他の著作財産権
9. 著作権（著作財産権）III～著作権の制限、特に引用の考え方
10. 著作権侵害I～要件、依拠及び類似性等の判断
11. 著作権侵害II～著作権侵害の効果、権利の用尽等
12. 著作権侵害III～みなし侵害
13. 著作隣接権～概論、実演家の権利、放送事業者の権利  
パブリシティの権利
14. 商標登録要件（実体的要件）と商標権侵害・不正競争防止法、パブリシティの権利
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートや発表内容等の資料を利用して総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

著作権の基礎知識は下記WEBサイト上の学習用ビデオを事前に視聴してください。  
<http://www.kim-lab.info/domescon/2015video/cp/cp.html>

# 知的財産法II 【昼】

## 履修上の注意 /Remarks

毎回、ネット上のパテントサロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。  
パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>  
最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>  
単なる教科書の知識だけでなく、企業経営等の実務的側面から考えることをおすすめします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。  
メールアドレス [kimlab01@gmail.com](mailto:kimlab01@gmail.com)  
スカイプID kim-lab  
研究室ホームページ <http://www.kim-lab.info/>

## キーワード /Keywords

著作権 著作者人格権 著作隣接権 原盤権 出版権

# 現代政治論II 【昼】

担当者名 松尾 哲也 / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

### 【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、現代政治論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

現代政治論II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

### 授業の概要 /Course Description

20世紀は、戦争の世紀と呼ばれるほど、多くの戦争が繰り返され、その戦禍は戦場で戦う兵士のみならず、一般の人々の日常にも広がり、多くの人々の生命・財産を奪った。政治が悲惨な結末を生むとき、その原因として、いかなる論理・思想が存在しているのだろうか。

本講義では、第一次世界大戦から全体主義の台頭、第二次世界大戦とユダヤ人虐殺、原爆投下といった歴史を振り返り、人間の生に深く関わる政治の実態について講義する。

その後、ハンナ・アレント、丸山眞男、マックス・ウェーバー、カール・シュミット、マックス・ホルクハイマー、エーリッヒ・フロム、レオ・シュトラウスといった人物の論述から、20世紀の欧米および日本の政治の背後にある論理・思想を明らかにしていく。

そして、20世紀の政治の負の論理・思想を乗り越える、公共性・古典古代の政治哲学という二つの観点から、対立を超えて、善き政治社会の構築に向かう理論的枠組みと視点について学ぶ。

### 教科書 /Textbooks

適宜、プリント資料を配布します。

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

ハナ・アレント 著、大久保和郎・大島かおり訳 『全体主義の起原3 - 全体主義』(みすず書房 1974年)

丸山眞男著 『(新装版) 現代政治の思想と行動』(未来社 新装版 2006年)

マックス・ウェーバー著、脇圭平訳 『職業としての政治 (岩波文庫)』(岩波書店 1980年)

C・シュミット著、田中浩・原田武雄訳 『政治的なものの概念』(未来社 1970年)

マックス・ホルクハイマー著、山口祐弘訳 『理性の腐蝕』(せりか書房 新版 1987年)

エーリッヒ・フロム著、日高六郎訳 『自由からの逃走 新版』(東京創元社 1965年)

レオ・シュトラウス著、塚崎智・石崎嘉彦訳 『自然権と歴史(ちくま学芸文庫)』(筑摩書房 ちくま学芸文庫版 2013年)

足立幸男著 『政策と価値 - 現代の政治哲学』(ミネルヴァ書房、1991年)

# 現代政治論II 【昼】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 20世紀とはどのような世紀であったのか
- 第3回 ヒトラーとナチスドイツ
- 第4回 全体主義の起源 - ハンナ・アレント -
- 第5回 超国家主義の論理と心理 - 丸山眞男 -
- 第6回 職業としての政治 - マックス・ウェーバー -
- 第7回 政治的なものの概念 - カール・シュミット -
- 第8回 理性の腐蝕 - マックス・ホルクハイマー -
- 第9回 自由からの逃走 - エーリッヒ・フロム -
- 第10回 自然権と歴史 - レオ・シュトラウス -
- 第11回 リベラリズムの政治理論
- 第12回 保守主義の政治理論
- 第13回 公共性の政治理論
- 第14回 古典古代の政治哲学と現代
- 第15回 総括 - 善き政治社会の構築に向けて -

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・70% 課題(小レポート)・・・30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は特に必要としませんが、授業中に課題レポートについてお話ししますので、その課題に沿った学習をしてください。

## 履修上の注意 /Remarks

特になし。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業で取り上げる歴史および著作について、事前の予備知識や専門知識がなくても受講できるように、初歩から授業を行います。

政治学を専攻する方だけでなく、法律を専攻する方、政策学を専攻する方でもわかりやすく、またそれぞれの専攻分野にも活かせる授業を行います。

## キーワード /Keywords

20世紀の政治史・戦争と平和・現代政治理論・公共哲学・政治哲学・政策規範論

# 都市環境論II 【昼】

担当者名 /Instructor 中園 哲 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、都市環境論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

都市環境論II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

明治以来、日本の近代国家形成に大きな役割を果たした北九州は、第二次大戦後の復興においても牽引車として貢献し、経済高度成長期には深刻な環境汚染を引き起こしながら、市民、企業、大学、行政の連携により、公害を克服した。この間の経験を活かした環境国際協力を、他都市に先駆けて取り組みその成果は国連機関から高く評価された。このことが市民の環境意識を高め、「公害の町」から「環境先進都市」へと脱皮する原動力となった。公害、国際協力、廃棄物の適正処理、循環型社会形成、環境教育、地球環境問題、少子高齢化社会、市民環境力育成と環境未来都市に向けた取り組みで世界をリードすることができた要因と教訓を考察したい。北九州の環境の歴史から、私たちは何を学び取り、未来に活かしていくべきか、そして国際社会の中で何が活かせるかを考える。

## 教科書 /Textbooks

講義において資料配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに： 北九州市の環境政策の概要と講義の進め方について
- 2回 公害問題の発生と対策： 前例のない社会問題に市と市民はどのように立ち向かったか
- 3回 スモッグ警報発令と全市的協力体制確立： 北九州市の決断と企業の協力
- 4回 公害国会における公害関連法制度の確立： 開発より環境への動き
- 5回 公害の克服と新しい環境問題への取り組み： 後追い行政から未然防止へ
- 6回 環境国際協力の取り組み： 中国大連市との環境協力など
- 7回 環境国際協力の展開から環境ビジネスへ： アジア低炭素化センターの取り組み
- 8回 国際社会からの評価： グローバル500受賞が市民にもたらしたもの
- 9回 地球環境問題への取り組み： 国際社会からの期待と北九州市の取り組み
- 10回 廃棄物処理対策の方針転換： 「処理重視から資源リサイクルへ」
- 11回 エコタウンと3R： 循環型社会構築への道のり
- 12回 PCB処理とリスクコミュニケーション： 市民環境力とはなにか
- 13回 環境教育と市民活動： 環境教育の歩みと多様化する市民活動の発展
- 14回 低炭素社会づくりと環境モデル都市への道： 今、求められるもの
- 15回 まとめ： 北九州の環境政策はなぜ成功したのか、そしてこれから何が必要か

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業における積極的参画とレポート。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境首都検定公認テキストで予習および復習することが望ましい。

## 都市環境論II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# NPO・社会起業論II【昼】

担当者名 /Instructor 永田 賢介 / NAGATA KENSUKE / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

## 【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、NPO・社会起業分野の知識を修得する。
技能	○	NPO・社会起業の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、NPO・社会起業に関して評価立案し実践的に提言することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

NPO・社会起業論II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会の中で「普通」「常識」「当たり前」と呼ばれる事を疑い、自身の課題に対する当事者意識から、望む社会の姿をイメージし、小さな一歩を踏み出す人々が一定数を越えた時、社会的制度や文化、人々の生活様式が大きく変化することを「ソーシャル・イノベーション」と呼びますが、その中で重要な役割を担うのがNPOや社会起業です。

本授業では、主にアメリカのNPOの事例を文献から読み解くこととディスカッションを通して、NPOが現在社会の中でどのような役割を担っているか、またこれから何を期待されているかを、皆さんと一緒に考えます。

また、実際の地域におけるNPOの現場と乖離しない知識や思考を獲得するため、文献からの情報に留まらず、講師が経営するNPO法人アカツキ・またアカツキのコンサルティング支援先であった実際のケースを参考にし、実際のNPO経営者へのインタビューも行います。

本授業内では学生の到達目標、また成績の評価基準として、「NPOの現場と接続した専門知識の獲得」と「NPOの経営課題を俯瞰して構造的に見る力」の2点を重視します。

## 教科書 /Textbooks

レスリー・R・クラッチフィールド(著)、ヘザー・マクラウド・グラント(著)、服部 優子(翻訳) 『世界を変える偉大なNPOの条件』 ダイヤモンド社 2012年 ¥2,400(税別)

他、適宜プリントや映像資料等を使用します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

フランシス・ウェスリー(著)、ブレンダ・ツインマーマン(著)、マイケル・クイン・パットン(著)、エリック・ヤング(著)、東出 顕子(翻訳) 『誰が世界を変えるのか ソーシャルイノベーションはここから始まる』 英治出版 2008年 ¥1,900(税別)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回: オリエンテーション / 基礎的用語や知識の確認
- 2回: NPO法立法プロセスが生み出したもの / 六つの原則
- 3回: 社会を変える力
- 4回: 政策アドボカシーとサービスを提供する
- 5回: 市場の力を利用する
- 6回: 北九州のNPO事例研究発表(1) 【福祉】
- 7回: 熱烈な支持者を育てる
- 8回: NPOのネットワークを育てる
- 9回: 北九州のNPO事例研究発表(2) 【環境】
- 10回: 環境に適応する技術を身につける
- 11回: 権限を分担する
- 12回: 北九州のNPO事例研究発表(3) 【動物保護】
- 13回: 影響力を持続させるための方法
- 14回: 原則を実践に移す
- 15回: 全体の振り返りと共有

## 成績評価の方法 /Assessment Method

レポ ート...30% 日常の授業への取り組み...70%

## NPO・社会起業論II【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 事前学習については、毎回講義で輪読または事例研究を行いますので、事前に教科書や配布資料の該当範囲を読み、加えて発表担当者はシラバスを作成しておいてください。(A4用紙1~2枚程度)
- ・ 事後学習については、その日のディスカッションを経て聞いた他の学生や教員の意見を踏まえた上で、自分の考えにどのような変化があったかを再度振り返っておいてください。

### 履修上の注意 /Remarks

授業ではたびたびディスカッションの時間を設けます。発言するときには「I think〜(私はこう思う)」と自分を主語にして語り、他者の意見を聞くときには「Yes,and〜(うん、それで?)」という傾聴の姿勢で参加してください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数年前までの日本において「NPO」と言えば、奉仕活動や時に自己犠牲のようなイメージが付きまとい、ボランティアや寄付という言葉も社会から十分な理解を得られない状況が続いていました。しかし、ソーシャル・ビジネスを推進する社会起業家の登場や、東日本大震災でのボランティア・寄付の必要性とポジティブな影響を実感する人も増え、一定の社会的な認知も進んでいます。

昨今では法や政策もNPOを無視できず、またNPO側も法や政策へのアプローチ無くしてミッション達成に至ることはできません。

利己と利他は相反するものではなく、また生活と社会も地続きであるものです。国際関係からまちづくりや地域福祉まで、混沌としていく私たちの未来に、NPOという組織形態がどのような希望を持つのか、共に探していきましょう。

### キーワード /Keywords

NPO 社会起業 アドボカシー ロビイング 非営利 ソーシャル・イノベーション 当事者意識



# 都市計画論II 【昼】

担当者名 山脇 直祐 / Naosuke YAMAWAKI / 北方キャンパス 非常勤講師  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、都市計画論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

都市計画論II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

「『住むこと』について考える」

私たちは、必ず誰かの隣に住んでいます。

他者との関係のなかで「住む」ということは、私たちが生きていく上で避けようのない事実です。

また、「居住」するための「住居」のあり方は、私たちの生活のあり方を左右することすらあります。

それでは、私たちはいかなる方法で自ら「住む」環境の形成に関わっていくことができるのでしょうか。

本講は、私たちの日常生活にとって身近かつ根源的・基本的な「住む」という事実、都市計画を通し、政治・政策・法に関する学問の実践的意義について理解を深めること、新たな政策展開の可能性を考察することを目的とします。

## 教科書 /Textbooks

毎回、レジュメを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

その都度、紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 第 1回 はじめに。～「住むこと」がもつ根源性・政治性について～ 【居住】【住居】【住宅】
- 第 2回 「住むこと」とは何であったか～住宅政策における「住宅」観～ 【持家政策】【居住政策】
- 第 3回 「51C」から「居住福祉」へ～住宅改良の社会史～ 【貧民窟】【51C】【居住福祉】
- 第 4回 居住地によるデモクラシー? 【集合住宅デモクラシー】【私的政府】【CID】
- 第 5回 社会が育む権利の内実～法解釈理論の新展開I～ 【所有】【総有】【合有】
- 第 6回 交渉で育て続ける契約～法解釈理論の新展開II～ 【私的自治】【関係】【交渉】
- 第 7回 わが国マンションにおける議会政治 【強制競売】【建替え決議】【区分所有者集会】
- 第 8回 マンション所有権の基本権的性質 【区分所有権】
- 第 9回 “困った人たち”の物語～マンション管理狂騒曲～ 【マンション管理】
- 第 10回 揺れ続けたマンション～阪神淡路大震災被災マンションの建替え～ 【被災建替え】
- 第 11回 不法占拠の“法外”な合法性?～ウトロ51番地・伊丹空港に住んだ人々～ 【合法性】
- 第 12回 集合住宅としての都市の命運～チエルノブイリ・九龍城塞、デトロイト・軍艦島と北九州～ 【国家】【経済】【都市】
- 第 13回 いかにして「住む」か～コーポラティブ・ハウジングという手法～ 【コーポラティブ・ハウジング】
- 第 14回 どのように「住む」か～コレクティブ・ハウジングという可能性～ 【コレクティブ・ハウジング】
- 第 15回 おわりに。～居住生活と住宅をめぐる「価値」・「場所」・「方法」～ 【合意形成】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

受講姿勢、定期試験。各回のテーマに関する自主的レポート(2500字程度)の提出も歓迎します。

受講姿勢...60% 定期試験...40%

レポートはその内容に応じ、1本10%までで加点します。

## 都市計画論II【昼】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としてはシラバス掲載のキーワードについて、自分なりの問題意識をもって調べてみてください。

事後学習としては配布するレジユメを踏まえ、その際も細かな知識にこだわることなく、自分なりの問題意識に応じた対策を検討しておいてください。

### 履修上の注意 /Remarks

臆しないうるまい、ただし考える。

御紹介できる情報や機関もあると思いますので、困り事があったら応相談。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

出来、不出来より積極性を評価します。

修士論文作成に向けて、進路形成に向けていかに講義を活用するかを考えてもらいたい。

### キーワード /Keywords

居住、住居、住宅、持家政策、居住政策、貧民窟、51C、居住福祉、集合住宅デモクラシー、私的政府、CID、所有、総有、合有、私的自治、關係的契約、交渉促進規範、強制競売、建替え決議、区分所有者集会、区分所有権、マンション管理、被災建替え、合法性、国家、経済、都市、コーポラティブ・ハウジング、コレクティブ・ハウジング、合意形成

# 法政総合演習 【夜】

担当者名 /Instructor 法学研究科担当教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
 /Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系・政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、法律学と政策科学に関する総合的な知識を修得する。
技能		
態度	○	自立した研究者または高度専門職業人として、主体的かつ積極的に研究し行動することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

法政総合演習

## 授業の概要 /Course Description

本科目は、法律系・政策系の枠組みを超えて、また研究者コース・専修コースの枠組みを超えて、法律学・政策科学の全体を俯瞰する。それにより、自らが専門として研究しようとする分野が、法学全体の中でどのような位置づけとなるのかを把握するために必要となる知識を習得することを目的とする。  
 オムニバス式の講義に本研究科所属の専任教員の多くが出講することにより、教員と大学院生の交流の接点を作り出すとともに、各担当教員の専門分野に関する現在の状況を学生に提示することで、学生の履修計画、論文執筆、ならびに研究に関連する他分野についての質疑応答などにも役立つことが期待される。

## 教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各担当者のトピックスに応じて、適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 憲法学の現在
- 第3回 基礎法学の現在
- 第4回 民法学の現在
- 第5回 商法学の現在
- 第6回 民事訴訟法学の現在
- 第7回 刑事法学の現在
- 第8回 国際法学の現在
- 第9回 都市政策研究の現在
- 第10回 環境政策研究の現在
- 第11回 福祉政策研究の現在
- 第12回 比較政策研究の現在
- 第13回 政治研究の現在
- 第14回 行政研究の現在
- 第15回 大学院2年生による中間発表会と法政総合演習のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・50% レポート・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回の分野の内容について、自ら一定程度の知識を事前に得て予習しておくこと。授業の後は、ノートや配付資料をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自らの研究分野以外の知識も、この講義を通して積極的に吸収してください。各担当教員の専門分野およびそれに関連した参考文献などを自ら進んで調べるにより、より理解が深まるでしょう。

# 法政総合演習【夜】

キーワード /Keywords

# 法律文献調査 【夜】

担当者名 /Instructor 法律学科教員

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解		
技能	◎	研究活動を進めるうえで必要となる法的情報（判例や法律文献や法令等）を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
態度	○	修士論文または特定課題研究の作成に必要な基本的な研究姿勢を身につける。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

法律文献調査

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、六法を中心とする法律の各分野に即して、必要となってくる判例や法律文献や法令等の調査方法について学習する。その際、基本的な法分野を広く見渡しながら学習することになる。そのうえで最終的には、基本的には各自が専門とする分野についての判例評釈を書くことになる。

そのために、判例、文献、法令等の引用の仕方などもあわせて学ぶことになる。

法律学の全体を幅広く見渡すと同時に、この講義で学んだことを、各人が修士論文や特定課題研究を今後執筆していく上でのスキルとして活用できるようにすることが、本講義の目的とするところである。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて講義中に指示する。

# 法律文献調査【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論文の作成にあたって-盗用・剽窃に対する注意喚起と正しい引用の仕方
- 第3回 法律文献情報の調査法
- 第4回 法令の調査法
- 第5回 図書館データベースを使った判例・文献の調査法
- 第6回 公法領域の判例・文献調査について①【判例の読み方】
- 第7回 公法領域の判例・文献調査について②【判例評釈の作法】
- 第8回 刑事法領域の判例・文献調査について①【判例の読み方】
- 第9回 刑事法領域の判例・文献調査について②【判例評釈の作法】
- 第10回 民法領域の判例・文献調査について①【判例の読み方】
- 第11回 民法領域の判例・文献調査について②【判例評釈の作法】
- 第12回 商法領域の判例・文献調査について【文献の読み方・文献レビューの作法】
- 第13回 社会法領域の判例・文献調査について【文献の読み方・文献レビューの作法】
- 第14回 基礎法領域の(判例・)文献調査について【文献の読み方・文献レビューの作法】
- 第15回 国際法領域の判例・文献調査について【国際法領域関連情報の調査方法】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

講義への参加の態様(熱心さや貢献度など)(50%)、レポート(50%)  
レポートは、各自が専門とする分野での判例評釈を作成することを基本とする。  
ただし、専門とする分野によっては教員と相談のうえ、文献レビューでも可とする。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

- 1, 判例や文献の情報検索に際してはパソコンを使用することもあるので、パソコンの基本的な操作方法に関しては、事前に知っておく必要がある。
- 2, 各講義回の担当教員の指示に従って、課題に取り組むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

文献調査 法令調査、判例調査

# 憲法BIII【夜】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、憲法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

憲法B III

## 授業の概要 /Course Description

憲法学未習者も念頭におきながら、憲法学に関する基礎的知識の習得あるいは確認、及び多角的検討を行うことを目的とする。具体的には、下記「教科書」を参加者全員で講読していくが、参加者の人数や専攻等に応じて、取り上げる文献の変更もありうる。テキストの分担報告・それに基づく全員での検討・議論を進行の基本とする。

## 教科書 /Textbooks

安念潤司ほか編著『論点 日本国憲法 第2版』（東京法令出版、2014年）  
※変更の可能性もあり

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告分担決定など）
- 第2回 指定テキストの報告及び検討・議論（序章第1節1, 4, 5）
- 第3回 指定テキストの報告及び検討・議論（序章第3節1, 2, 3, 4）
- 第4回 指定テキストの報告及び検討・議論（序章第3節5, 6, 7）
- 第5回 指定テキストの報告及び検討・議論（第1章総説1, 2, 4, 5）
- 第6回 指定テキストの報告及び検討・議論（第1章第1節1, 2, 3, 4）
- 第7回 指定テキストの報告及び検討・議論（第1章第2節①2, 3, 4）
- 第8回 指定テキストの報告及び検討・議論（第1章第2節①5, 6, 7, 8）
- 第9回 指定テキストの報告及び検討・議論（第1章第2節③1, 2, 3, 4, 5）
- 第10回 指定テキストの報告及び検討・議論（第1章第3節1, 2, 3）
- 第11回 指定テキストの報告及び検討・議論（第1章第3節4, 5, 6）
- 第12回 指定テキストの報告及び検討・議論（第2章総説1, 2, 3, 4, 5）
- 第13回 指定テキストの報告及び検討・議論（第2章第1節1, 2, 3）
- 第14回 指定テキストの報告及び検討・議論（第2章第2節1, 2, 3, 4, 5）
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

担当回の報告内容：50%、検討・議論への参加状況：50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの報告が複数回課されるので、報告担当者は、該当部分の内容をまとめたレジユメを用意すること。報告者以外も、テキストの該当部分を十分読み込んで、議論に参加できるように準備しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

憲法についてある程度の前提知識を有していることが望ましいが、強い関心があれば未習者であっても歓迎する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 憲法BIII 【夜】

キーワード /Keywords



# 憲法BIV 【夜】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

## 【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、憲法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

憲法BIV

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

憲法学未習者も念頭におきながら、憲法学に関する基礎的知識の習得あるいは確認、及び多角的検討を行うことを目的とする。具体的には、下記「教科書」を参加者全員で講読していくが、参加者の人数や専攻等に応じて、取り上げる文献の変更もありうる。テキストの分担報告・それに基づく全員での検討・議論を進行の基本とする。

## 教科書 /Textbooks

新井誠ほか編著『デイベート憲法』（信山社、2014年）  
※変更の可能性もあり

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(演習の目的・概要説明、報告分担決定など)
- 第2回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅱ おさえておきたい裁判/訴訟のルール)
- 第3回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-1 プライバシー)
- 第4回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-2 自己決定)
- 第5回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-3 平等)
- 第6回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-4 思想・良心の自由)
- 第7回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-5 表現の自由①)
- 第8回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-6 表現の自由②)
- 第9回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-7 信教の自由・政教分離)
- 第10回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-8 経済的自由)
- 第11回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-9 生存権)
- 第12回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-10 選挙権)
- 第13回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-11 国会)
- 第14回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-12 内閣)
- 第15回 指定テキストの報告及び検討・議論(Ⅲ-13 裁判所)

## 成績評価の方法 /Assessment Method

担当回の報告内容：50%、検討・議論への参加状況：50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの報告が複数回課されるので、報告担当者は、該当部分の内容をまとめたレジユメを用意すること。報告者以外も、テキストの該当部分を十分読み込んで、議論に参加できるように準備しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

憲法についてある程度の前提知識を有していることが望ましいが、強い関心があれば未習者であっても歓迎する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 憲法BIV 【夜】

キーワード /Keywords

# 行政法BIII 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、行政法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

行政法B III

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

テーマ 「行政訴訟」  
行政訴訟における諸問題について、解釈論を中心として検討を行う。  
授業においては、

- ① 旧憲法下の行政裁判制度と現行憲法下の行政訴訟制度との相違
- ② 行政事件訴訟法に定める訴訟類型
- ③ 抗告訴訟における訴訟区分
- ④ 行政訴訟における訴訟要件
- ⑤ 行政訴訟における仮の救済

について検討し、高度の知識を学び理解を深めることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

宇賀克也『行政法概説II（第5版）』（2015、有斐閣）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 小林久起『司法制度改革概説3 行政事件訴訟法』（2004、商事法務）
- 日本弁護士連合会行政訴訟センター編『実務解説行政事件訴訟法』（2006、青林書院）
- 園部逸男・芝池義一編『改正行政事件訴訟法の理論と実務』（有斐閣）
- 小早川光郎編『改正行政事件訴訟法』（ジュリスト増刊、2005年、有斐閣）
- 塩野宏『行政法II（第5版増補版）』（2013、有斐閣）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- |       |              |              |
|-------|--------------|--------------|
| 第 1回  | ガイダンス        |              |
| 第 2回  | 行政訴訟制度の沿革（1） | 旧憲法下の行政裁判制度  |
| 第 3回  | 行政訴訟制度の沿革（2） | 現行憲法と行政訴訟    |
| 第 4回  | 行政訴訟制度の沿革（3） | 行政事件訴訟法の改正   |
| 第 5回  | 行政訴訟の類型（1）   | 行政訴訟の4類型     |
| 第 6回  | 行政訴訟の類型（2）   | 行政訴訟の4類型（続）  |
| 第 7回  | 抗告訴訟（1）      | 抗告訴訟の意義とその種類 |
| 第 8回  | 抗告訴訟（2）      | 抗告訴訟の訴訟要件    |
| 第 9回  | 抗告訴訟（3）      | 抗告訴訟の審理過程    |
| 第 10回 | 抗告訴訟（4）      | 抗告訴訟の判決      |
| 第 11回 | 当事者訴訟        |              |
| 第 12回 | 民衆訴訟と機関訴訟    |              |
| 第 13回 | 仮の権利保護（1）    | 執行停止と仮処分     |
| 第 14回 | 仮の権利保護（2）    | 仮の義務付けと仮の差止  |
| 第 15回 | まとめ          |              |

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取組状況 100%（質疑における応答、報告の内容、出席状況を含む。）  
試験は行わない。

# 行政法BIII 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付するレジユメおよび資料にそって事前に学習しておくこと。  
特に調べておくべきことを指示する場合には、然るべく作業しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

憲法および行政法の知識があることを前提とする。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 行政法BIV 【夜】

担当者名 /Instructor 岡本 博志 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、行政法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

行政法BIV

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

テーマ 「情報公開法」  
情報公開法制について、その仕組みと解釈論の検討を行う。

授業においては、  
① 情報公開制度の意義  
② 情報公開制度の憲法上の基礎  
③ 行政機関情報公開法・情報公開条例の仕組み  
④ 判例の状況の検討  
を通して、情報公開法制についての高度な知識と理解を深めることを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

宇賀克也『新・情報公開法の逐条解説（第7版）』（2016、有斐閣）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

IAM=行政管理研究センター編『情報公開制度改善のポイント』（2006、ぎょうせい）

その他適宜指示する。

# 行政法BIV【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 情報公開の意義  
情報公開とは何か
- 第2回 情報公開制度の憲法上の基礎  
知る権利、国民主権、説明責任
- 第3回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(1)  
情報・行政文書の意義
- 第4回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(2)  
個人情報の不開示とプライバシー保護
- 第5回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(3)  
法人等情報および意思形成過程情報の不開示
- 第6回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(4)  
事務事業情報の不開示
- 第7回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(5)  
安全・公安情報、外交等情報の不開示
- 第8回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(6)  
部分開示、応答許否、裁量的開示
- 第9回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(7)  
開示請求手続および開示手続
- 第10回 情報公開法・情報公開条例の仕組み(8)  
不服申立て、審査会による審査、決定・裁決
- 第11回 情報公開に関する判例の検討(1)
- 第12回 情報公開に関する判例の検討(2)
- 第13回 情報公開に関する判例の検討(3)
- 第14回 情報公開に関する判例の検討(4)
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取組の状況(質疑における応答、報告の内容、出席状況を含む。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配付するレジユメおよび資料を事前に読んでおくこと。  
報告を求められた場合には、なるべく作業を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

憲法および行政法に関する知識が必要である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 民法AIII 【夜】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

民法AIII

## 授業の概要 /Course Description

この科目では、民法の中の民法総則の部分について考える。民法を学習する場合、民法総則が基本となる。また、法学全般の基本でもある。ここを学習することは、大きな意味があるものと思われる。この分野について、裁判例に留意しながら、主として学生の報告という形で、授業を進めてゆきたい。

## 教科書 /Textbooks

民法総則分野の本であれば、なんでも良い。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要があれば、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 信義誠実の原則の適用範囲
- 3回 権利の濫用の適用範囲
- 4回 未成年者をめぐる諸問題
- 5回 成年後見をめぐる諸問題
- 6回 物をめぐる諸問題
- 7回 法律行為をめぐる諸問題
- 8回 虚偽表示をめぐる諸問題
- 9回 錯誤をめぐる諸問題
- 10回 詐欺、強迫をめぐる諸問題
- 11回 代理をめぐる諸問題
- 12回 無権代理をめぐる諸問題
- 13回 条件、期限をめぐる諸問題
- 14回 時効をめぐる諸問題
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、参加意欲 ... 50 %  
学期末に提出してもらうレポート ... 50 %  
(レポート課題は、講義で取り扱ったものの中から、後日、指定する。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として民法総則関連の判決を取り扱うので、事前学習(予習)としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

## 履修上の注意 /Remarks

六法を必ず、持参すること。  
それなりに調査・研究することが望まれる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし。

# 民法AIII 【夜】

キーワード /Keywords

民法総則



# 民法AIV 【夜】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		民法AIV

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

民法の中の債権総論の分野について考える。近時、債権法改正の議論が重要であり、法務省案が出されるに至っている。これを理解するためには、まず、現在の民法の債権法について理解する必要がある。その中でも、債権総論について、裁判例に留意しながら、講義及び学生の報告という形で、授業を進めて行きたい。改正提案ではどのようなになっているかについて留意しながら、進めて行きたい。

## 教科書 /Textbooks

債権総論分野の本であれば、なんでも良い。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要があれば、指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 物権と債権の違いをめぐる諸問題
- 3回 種類債権をめぐる諸問題
- 4回 強制履行をめぐる諸問題
- 5回 履行遅滞をめぐる諸問題
- 6回 履行不能をめぐる諸問題
- 7回 不完全履行をめぐる諸問題
- 8回 賠償範囲をめぐる諸問題
- 9回 債権者代位権をめぐる諸問題
- 10回 債権者取消権をめぐる諸問題
- 11回 多数当事者の債権関係をめぐる諸問題
- 12回 債権譲渡をめぐる諸問題
- 13回 弁済をめぐる諸問題
- 14回 相殺をめぐる諸問題
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、参加意欲 ..... 50 %  
 学期末に提出してもらうレポート ..... 50 %  
 (レポート課題は、授業で取り扱ったものの中から、後日、指定する。)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として債権総論関連の判決を取り扱うので、事前学習(予習)としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。さらに、法務省案との対比も必要である。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

## 履修上の注意 /Remarks

六法は必ず持参すること。『債権法改正の基本方針』（商事法務）を購入することが望ましい。それなりに調査・研究することが望まれる。

# 民法AIV 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし。

## キーワード /Keywords

債権総論、債権法改正

# 民法BIII【夜】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		民法B III

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、民法・財産法分野に関する学術論文（なかでも、フランス民法を比較法的分析の主たる対象としている論説等）の検討を行う。学部時代に培った知見・分析力等を総動員して、質の高い研究報告、文献の検討、およびレポート執筆を行う力を養うことがこの授業のねらいである。

## 教科書 /Textbooks

※使用しない。民法（財産法）の基本書・体系書、フランス（民）法の概説書等については、受講院生が普段使用しているものを持参すること。なお、最新版（年度）の六法は必携である。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○山口俊夫『フランス債権法』（東京大学出版会、1986年）※現在、絶版で入手困難な文献なので、教員所有のものをコピー（研究該当箇所のみ）して配布する予定。  
※その他、参考書については、適宜授業のなかで紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※【】内はキーワード。  
第1回：ガイダンス；授業内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明・協議・決定。【大学院レベルの研究報告とは？】  
第2回：報告学術論文概要報告（受講生全員）。【フランス債権法分野を対象とする代表的研究論文】  
第3回：教員による研究報告および質疑・応答 【フランス債権法における法定解除の法的基礎と要件（論）】  
第4回：教員による研究報告に対する質疑・応答【黙示の解除条件とフランス民法1184条】、【フランス民法（債権法）改正】  
第5回：院生による研究報告および質疑・応答 その1【フランス民法上の法制度の理解】  
第6回：院生による研究報告および質疑・応答 その2【フランス民法における学説史の意義を意識した質疑・応答】  
第7回：院生による研究報告および質疑・応答 その3【比較法的考察（フランス法と日本法との差異に着目する）】  
第8回：院生による研究報告および質疑・応答 その4【わが国旧民法への接続（ポワソナード草案研究）】  
第9回：院生による研究報告および質疑・応答 その5【ローマ法からフランス民法典制定までの流れ】  
第10回：院生による研究報告および質疑・応答 その6【わが国における当該分野の研究の現状と課題】  
第11回：原著（フランス債権法）研究その1【現代フランス債権法における契約解除制度】  
※ただし、受講院生がフランス語を読めない場合は、他の内容を協議のうえで決定する予定である。  
第12回：原著（フランス債権法）研究その2【19世紀註釈学派（オーブリー＝ロー、ローランの著作など）】  
第13回：原著（フランス債権法）研究その3【民法典編纂過程に関する資料に触れる（共和国暦8年草案など）】  
第14回：原著（フランス債権法）研究その4【フランス民法典に影響を与えた学説に触れる（ドマ、ポティエ）】  
第15回：まとめ  
  
※8月初旬、レポート（5,000字程度）を提出すること。内容は、この授業で検討したフランス民法上の法制度とわが国の民法上の法制度との比較法的考察を主たるテーマとしたものとする。執筆要領その他は、初回時に説明する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

※授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など...60%  
※レポートの内容...40%  
【注意】レポート未提出者には単位を付与しない。

# 民法BIII 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】毎回授業の終わりに、次回までに調べておくべき内容（フランス民法上の諸制度やそれらについて書かれた論文など）を指示するので、次回授業時までに資料を読み込み、質疑応答などに活かすこと。

【事後学習】毎回授業の終わりに、簡単な「一行問題（フランス債務法に関するもの。その回の授業内容を思い出し、文献を調べれば容易に解答することができるもの。）」を出すので、復習として取り組んでもらう。

## 履修上の注意 /Remarks

報告準備、レポート執筆など、負担の大きい授業である。わが国の民法は当然のこと、フランス民法にも関心がないと生産的な授業・研究にならない。参考文献に目を通すなどして、各自でできる最大限の努力をしてもらいたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス民法に関心を持とう！旧民法にも関心を持とう！

## キーワード /Keywords

フランス債務法研究、旧民法典

# 民法BIV 【夜】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

## 【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

民法BIV

## 授業の概要 /Course Description

この授業では、債権法分野に関する重要判決の再検討を行う。下記「授業計画・内容」欄に掲げた判決は、学部時代、民法学の基本書・体系書の中で、はたまた、ゼミでの判例研究報告などで、一度はその判決理由（の一部）を読んだことのあるものばかりであろう。しかし、この授業では、主に、「判決が出された当時の学説との関係」の視点から、より深く、当該最高裁（または大審院）判決を分析してもらおう。特に、最高裁（ないし大審院）がその判決理由中において定立した「規範」の意義・射程を当時の学説がどのように受け止めていたかなど、学部とは一線を画するレベルの高い民事判例研究報告・判例評釈執筆を行っていただきたい。

## 教科書 /Textbooks

最新版（年度）の六法（判例付きのものが望ましい。）必携。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

※参考書については、適宜授業のなかで紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス；授業内容・進め方、報告順、成績評価方法等についての説明・協議・決定。
- 第2回：「カフエー丸玉女給事件・再論①（大審院判決理由の分析）」  
※以下、受講院生と教員との対話形式で分析を行う。
- 第3回：「カフエー丸玉女給事件・再論②（判決当時の学説との関係）」
- 第4回：「富喜丸事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第5回：「富喜丸事件・再論②（判決当時の学説との関係）」
- 第6回：「タービンポンプ事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第7回：「タービンポンプ事件・再論②（判決当時の学説との関係）」
- 第8回：「『塩釜声の新聞社』事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第9回：「『塩釜声の新聞社』事件・再論②（判決当時の学説との関係）」
- 第10回：「ブルドーザー事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第11回：「ブルドーザー事件・再論②（判決当時の学説との関係）」
- 第12回：「大学湯事件・再論①（判決理由の分析）」
- 第13回：「大学湯事件・再論②（判決当時の学説との関係）」
- 第14回：受講院生による民事判例研究報告（報告40分、質疑・応答50分程度）
- 第15回：まとめ

※2018年2月初旬、レポート（7,000字程度）を提出すること。内容は、この授業で検討した最高裁判決（ないし大審院判決）を対象とする【判例評釈】とする。ただし、「大学院レベル」の判例評釈を求めたいので、学説の配置、判決当時の学説と当該判決（最高裁等が判決理由において定立した規範）との関係の詳細な分析など、多岐に渡る内容を期待する。なお、執筆要領その他の詳細は、初回時に説明する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- ※授業中の発言内容、議論・対話への積極的参加の度合い.....50%
- ※第14回（予定）で行う民事判例研究報告の内容.....20%
- ※レポート（判例評釈）の内容.....30%
- 【注意】レポート（判例評釈）未提出者には、原則として単位を付与しない。

# 民法BIV 【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】シラバス(授業計画・内容欄)を参照して、事前に、各判決について、民集(民録)を読み、当時の学説についても図書館などで文献を渉猟し、各判決の「扱われ方・読まれ方」を調べてくること。

【事後学習】他の院生や教員との質疑・応答で出された質問などについて、復習を兼ねて文献等を調べてくること。ペーパーの提出を求める。

## 履修上の注意 /Remarks

大審院時代の判決を比較的に多く扱うので、当然、大審院民事判決録、大審院民事判例集をじっくり読み込んでもらうことになる。事実関係の詳細がつかみにくい事件が多いので、各種文献を渉猟・咀嚼され、各自補ってもらいたい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できれば、戦前の「大審院判例審査会」が当時の民録・民集の「判決要旨」作成に当たって、上記大審院判決の判旨をどのように受け止めていたかといった点まで分析してもらいたい。じっくり腰を据えて研究しましょう！

## キーワード /Keywords

債権法、大審院判決の分析、大審院判例審査会

# 民法CIII【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

民法CIII

## 授業の概要 /Course Description

最新の最高裁判例を素材としながら、これまで学部で培ってきた民法の知識や理解、思考の専門性を一層深めるとともに、民法研究に必要な基礎作業ができるようになることを目的としています。

## 教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じてその都度紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業ガイダンス
- 2回 報告内容・担当者の決定
- 3回 判例研究の意義、目的、関係文献検索の方法の確認
- 4回 判例研究の方法、判例引用の仕方に関する基本事項の確認
- 5回 判例評釈等の活用方法の確認
- 6回 判例精読
- 7回 判例の検討方法の確認
- 8回 関連判例収集・精読
- 9回 関連判例検討・整理
- 10回 判例評釈等の主張整理
- 11回 基本文献による判例の評価
- 12回 関係論文による判例の評価
- 13回 判例評釈等による判例の評価
- 14回 判例の体系的な位置づけの検討
- 15回 研究成果のまとめと討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート(2000字詰め原稿用紙30枚程度)・・・80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、事案、判旨、論点をまとめたノートを作成して理解を深めてください。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生全員で分担報告していただき、皆で討論する形でゼミを進めます。報告の際にはレジュメを用意してください。受講生全員討論に積極的に参加するよう求めます。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 民法CIII 【夜】

キーワード /Keywords



# 民法CIV 【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

民法に対する知識や理解を一層深めるために、民法上重要な制度の形成・変遷の歴史を検討することを目的とします。制度の成り立ちや仕組み、その運用状況を知ることによって、我が国の民法上の問題点が、これまでどのように解決されてきたのか、そしてこれからどのように解決されるべきなのか、一緒に検討してみようと思っています。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じてその都度紹介します。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じてその都度紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業ガイダンス
- 2回 テーマ決定
- 3回 文献・判例の収集に関する基本事項の確認
- 4回 文献・判例の活用に関する基本事項の確認
- 5回 基本文献の収集
- 6回 基本文献の精読
- 7回 関係文献の収集
- 8回 関係文献の精読
- 9回 基本判例の収集
- 10回 基本判例の精読
- 11回 関連判例の収集
- 12回 関連判例の精読
- 13回 制度史、学説史の整理
- 14回 判例の形成・変遷過程の整理
- 15回 検討内容のまとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート(200字詰め原稿用紙30枚程度)・・・80%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基本文献や参考文献の該当箇所を参照しながら、事前にその内容と論点を整理しておいてください。また、事後は、講義内容や関係文献を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

## 履修上の注意 /Remarks

受講者全員で分担報告していただき、皆で討論する形でゼミを進めます。必要なことは開講時に指示します。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 商法AIII 【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、商法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

商法AIII

## 授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的ケースを取り上げながら、企業活動に関連して発生している金融上の諸問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。  
最近のビッグデータ等の情報産業をめぐる法的問題と現行の法制度の課題についても一緒に考えてみたいと思います。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講者の問題関心・テーマに応じて適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針の説明。興味を抱いているテーマ・事例を選ぶにあたり受講者各自の問題意識を確認し、あるいは問題意識を明確なものにする。
- 第2回 興味のあるテーマに関わる資料(裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など)を検索してみる。  
1) 裁判例や判例についての解説も含む関連資料が十分存在しているかどうか、  
2) 入手が容易かどうかをつかむことで、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める。
- 第3回 候補テーマを紹介し合う。テーマへの切り込み方、調査・分析の方法や範囲(射程距離)、探してみるべき資料などについて、お互いに意見交換・助言などを行う。
- 第4回 各自が取り組むテーマ(後からの変更もOK)をお互いに公表し、報告順番を決定する。
- 第5回 ビッグデータ活用産業の現状と課題について考える
- 第6回 顧客の個人情報漏洩問題について考える
- 第7回 銀行取引に関する事例研究
- 第8回 銀行経営の健全性に関する事例研究
- 第9回 銀行の貸し手責任に関する検討
- 第10回 証券取引に関する事例研究
- 第11回 証券会社の経営に関する事例研究
- 第12回 金融商品販売と消費者保護に関する事例研究
- 第13回 保険取引に関する事例研究
- 第14回 保険会社の健全な経営に関する事例研究
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%(出席・報告内容・議論内容・レポート内容の総合評価)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくこと  
授業後には議論を振り返り、さらに補充・再読すべき文献の収集や読み込みに積極的に取り組むこと

## 履修上の注意 /Remarks

報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

# 商法AIII 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【ビッグデータ】 【情報産業と法】 【金融商品の販売】

# 商法AIV 【夜】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、商法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		商法AIV

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義のねらいは、具体的なケースを取り上げながら、企業取引で生じている今日的な法律問題に法的な観点から分析・検討を加えることにあります。

## 教科書 /Textbooks

初回時に指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各自のテーマに応じて、適宜、指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ゼミの運営方針の説明。  
テーマ・事例の選定にあたり、各自の問題意識を再確認し、あるいは、明確化する。
- 第02回 興味のあるテーマに関わる資料（裁判例・統計・新聞雑誌記事・研究論文など）を検索してみる  
関連資料の多寡や入手の難易度を調査して、テーマとして取り組みやすいかどうかを見極める。
- 第03回 複数の報告候補テーマを紹介し合う。  
テーマへの切り込み方、調査・分析の方法や範囲（射程距離）などについて、意見交換を行う。
- 第04回 各自が取り組むテーマ（後からの変更もOK）を暫定的に決定すると共に報告順番を定める。
- 第05回 報告と討論 例：営業秘密と不正競争に関わる問題
- 第06回 報告と討論 例：秘密保持契約をめぐる問題点
- 第07回 報告と討論 例：新しい事業形態と名板貸責任
- 第08回 報告と討論 例：新しい事業形態と報償責任
- 第09回 報告と討論 例：銀行の貸付・融資をめぐる問題点
- 第10回 報告と討論 例：銀行取引約定書における債権保全規定
- 第11回 報告と討論 例：金利の規制
- 第12回 報告と討論 例：貸付債権の回収をめぐる問題点
- 第13回 報告と討論 例：信用保険・保証保険と保証の違いについて
- 第14回 報告と討論 例：消費者信用と信用生命保険について
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加度・・・100%（出席・報告内容・議論内容・レポート内容の総合評価）

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習・復習はもちろん、テーマについての自発的なりサーチが求められます。  
特に、次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくことが重要です。

## 履修上の注意 /Remarks

次回までに読んでおくべき参考文献等については、メモをとり、要点・疑問点をまとめておくと、演習がより有意義なものとなるでしょう。報告レジュメに関してはできるだけ事前に参加者に配布できるようにすることが、議論の活性化のためには望ましいといえます。

# 商法AIV【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

【銀行取引約定書】 【否認】 【フランチャイズシステムと法】

# 商法BIII 【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、商法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		商法BⅢ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

主に会社法に関する裁判例の分析を通じて、会社法の重要論点を検討します。この授業では株式会社の機関の問題を中心に扱います。

## 教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要な資料は適宜配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考となる文献については適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株主の権利(1)【株主の議決権】
- 3回 株主の権利(2)【利益供与】
- 4回 株式会社の機関総論
- 5回 株主総会(1)【株主提案権】【委任状の勧誘】
- 6回 株主総会(2)【決議の瑕疵】
- 7回 株式会社の業務執行
- 8回 株式会社の監査・監督
- 9回 取締役の義務
- 10回 役員報酬
- 11回 取締役の責任(1)【会社に対する責任】
- 12回 取締役の責任(2)【株主代表訴訟】
- 13回 取締役の責任(3)【第三者に対する責任】
- 14回 親子会社
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

## 履修上の注意 /Remarks

学部等において会社法の講義を受講済みであることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 商法BIV【夜】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、商法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		商法BIV

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

主に会社法に関する裁判例の分析を通じて、会社法の重要論点を検討します。この授業では資金調達・M&A関係の問題を扱います。

## 教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しない。必要な資料は適宜配布します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

参考となる文献等については授業で指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 株式会社のファイナンスの概要
- 3回 株式の発行(1)【有利発行】
- 4回 株式の発行(2)【不公正発行】
- 5回 株式の発行(3)【新株発行の無効】
- 6回 株式の譲渡
- 7回 自己株式
- 8回 新株予約権
- 9回 組織再編・M&A(1)【合併】
- 10回 組織再編・M&A(2)【株式交換】【株式移転】
- 11回 組織再編・M&A(3)【株式買取請求権】
- 12回 組織再編・M&A(4)【会社分割】
- 13回 組織再編・M&A(5)【敵対的買収】
- 14回 非公開化取引
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...50%、レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。

## 履修上の注意 /Remarks

学部等において会社法の講義を受講済みであることが望ましい。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



# 商法BIV【夜】

キーワード /Keywords

# 民事訴訟法AIII【夜】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

## 【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民事訴訟法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

民事訴訟法AIII

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する学説上、基本的な論点について、受講生に文献・判例を調査、報告してもらい、その上で、討論をします。このことにより民事訴訟法についての知識を修得することを目的とします。最終的に、レポートを提出してもらいます。レポートの分量は、10000字程度を予定しています。なお、レポートのテーマについては、受講生と相談の上、決定します。到達目標は以下のとおりです。

- ・ 司法書士、裁判所事務官、法律事務所事務員などの専門的職業人として活躍するために必要となる民事裁判の専門的知識を修得できる。
- ・ 学部での学習、社会人としての経験から関心を持った民事裁判についての問題を掘り下げて研究するための批判的分析能力・論理的思考能力を身につけることができる。

## 教科書 /Textbooks

特に、指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

授業時に、受講生に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 法律上の争訟
- 3回 移送
- 4回 除斥、忌避
- 5回 死者を当事者とする訴訟
- 6回 法人でない団体の当事者能力
- 7回 法定訴訟担当
- 8回 訴訟能力
- 9回 将来の給付の訴え
- 10回 遺言無効確認の訴え
- 11回 証書真否確認の訴え
- 12回 訴えの交換的変更
- 13回 境界確定の訴え
- 14回 相殺の抗弁と重複訴訟
- 15回 一部請求

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告状況 ... 50 % レポート ... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献を読み、理解できない点を把握しておく。図書館の参考文献を利用して、その点について、自分で調べる。授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生に個別に指示します。

# 民事訴訟法AIII 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 民事訴訟法AIV【夜】

担当者名 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、民事訴訟法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

民事訴訟法AIV

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

民事訴訟法に関する学説上、重要な論点について、受講生に文献・判例を調査、報告してもらい、その上で、討論する。最終的にレポートを作成することを目的とする。この講義を受講することにより、民事訴訟法についての幅広く、深い知識を修得できる。

レポートの分量は、10000字程度を予定している。なお、テーマについては、受講生と相談の上、決定する。

到達目標は以下のとおりです。

司法書士、裁判所事務官、法律事務所事務員などの専門的職業人として活躍するために必要となる民事裁判の専門的知識を修得できる。

・学部での学習、社会人としての経験から関心を持った民事裁判についての問題を掘り下げて研究するための批判的分析能力・論理的思考能力を身につけることができる。

## 教科書 /Textbooks

特に、指定しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義時に受講生に指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 攻撃防御方法の提出と信義則
- 3回 時機に遅れた攻撃防御方法
- 4回 弁論主義
- 5回 釈明権
- 6回 権利自白
- 7回 集団訴訟における証明
- 8回 概括的認定
- 9回 損害賠償額の算定
- 10回 違法収集証拠
- 11回 証明責任
- 12回 文書提出命令
- 13回 既判力の時的限界
- 14回 既判力の客観的範囲
- 15回 既判力の主観的範囲

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告状況 ... 50 % レポート ... 50 %

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献を読み、理解できない点を把握しておく。図書館の参考文献を利用して、その点について、自分で調べる。

授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

## 履修上の注意 /Remarks

授業前に、文献・判例を充分調査・検討して、講義に臨むこと。

# 民事訴訟法AIV 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 刑法AIII【夜】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		刑法AIII

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

刑法学における主要なテーマについて、現時点における理論的到達点を把握することを目指します。刑法AIでは、特に刑法総論のテーマについて議論します。授業の形式は、受講者各位が関心のあるテーマを選択し、テーマごとの基本的文献と関連する文献について、まとめて報告してもらい形になります。その報告を基に、教員および受講者全員で議論をすることで、現在の刑法学の問題関心を明らかにして、修士論文のテーマの設定ないしはその明確化に資するようにします。

## 教科書 /Textbooks

開講時に指示します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 伊東研祐 / 松宮孝明編『リーディングス刑法』（法律文化社、2015年）
  - 高橋橋夫 / 杉本一敏 / 仲道祐樹『理論刑法学入門 刑法理論の味わい方』（日本評論社、2014年）
- この他、受講者の関心に応じて、適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明、受講者によるテーマの選択)
  - 第2回 文献の調べ方、報告の方法、犯罪論体系の概説
  - 第3回 刑法解釈の方法論①【受講者による報告・議論】
  - 第4回 刑法解釈の方法論②【議論で上がった質問に対する追加報告】
  - 第5回 実行為論①【受講者による報告・議論】
  - 第6回 実行為論②【議論で上がった質問に対する追加報告】
  - 第7回 因果関係論①【受講者による報告・議論】
  - 第8回 因果関係論②【議論で上がった質問に対する追加報告】
  - 第9回 違法性の本質①【受講者による報告・議論】
  - 第10回 違法性の本質②【議論で上がった質問に対する追加報告】
  - 第11回 違法性阻却事由①【受講者による報告・議論】
  - 第12回 違法性阻却事由②【議論で上がった質問に対する追加報告】
  - 第13回 共犯論①【受講者による報告・議論】
  - 第14回 共犯論②【議論で上がった質問に対する追加報告】
  - 第15回 演習全体の総括
- ※受講者の関心に応じて、相談の上で内容と順序を変更する可能性があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容（50%）、演習中の積極的な発言（50%）を総合的に評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各項目の指定テキストを予め読んで、議論の要点をまとめるとともに、筆者の理解に対する自らの意見と追加的な問題提起を考えておいて下さい。  
演習後は、当日の議論の中で提起された問題点について再度検討して下さい。その際には、演習中に紹介された文献と指定テキストで示された参考文献を読むようにして下さい。

# 刑法AIII 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

レジюме、その他プレゼンテーションソフトを利用して資料を作成し、事前に大学の学習支援システムにアップロードして下さい。  
刑法総論および刑法各論を一通り学んでいることが前提とされます。基本的には、刑事法分野で修士論文を執筆する予定の大学院生を念頭にお  
いていますが、それ以外の大学院生にも配慮したいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院の演習では、テキストを正確に理解するのはもちろんのこと、筆者の説明に疑問を持つこと、そして自らの意見を示すことが求められま  
す。教員も含めて少人数での実施が予想されますので、受講生一人一人の積極的な参加が必要不可欠であることを肝に命じて下さい。

## キーワード /Keywords

刑事法学 刑法総論 刑法各論

# 刑法AIV【夜】

担当者名 /Instructor 土井 和重 / Kazushige Doi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		刑法AIV

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

刑法学における主要なテーマについて、現時点における理論的到達点を把握することを目指します。刑法AIIでは、特に刑法各論のテーマについて議論します。授業の形式は、受講者各位が関心のあるテーマを選択し、テーマごとの基本的文献と関連する文献について、まとめて報告してもらう形になります。その報告を基に、教員および受講者全員で議論をすることで、現在の刑法学の問題関心を明らかにして、修士論文のテーマの設定ないしはその明確化に資するようにします。  
学期末には、報告を担当した項目について、レポートを提出してもらいます。

## 教科書 /Textbooks

開講時に指示します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

- 伊東研祐 / 松宮孝明編『リーディングス刑法』(法律文化社、2015年)
  - 西田典之 / 山口厚 / 佐伯仁志編『刑法の争点(新・法律学の争点シリーズ)』(有斐閣、2007年)
- この他、受講者の関心に応じて、適宜紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明、受講者によるテーマの選択)
  - 第2回 刑法解釈学の方法論について概説
  - 第3回 住居侵入罪①【受講者による報告・議論】
  - 第4回 住居侵入罪②【議論で上がった質問に対する追加報告】
  - 第5回 名誉に対する罪①【受講者による報告・議論】
  - 第6回 名誉に対する罪②【議論で上がった質問に対する追加報告】
  - 第7回 財産犯論・総論①【受講者による報告・議論】
  - 第8回 財産犯論・総論②【議論で上がった質問に対する追加報告】
  - 第9回 詐欺罪①【受講者による報告・議論】
  - 第10回 詐欺罪②【議論で上がった質問に対する追加報告】
  - 第11回 背任罪①【受講者による報告・議論】
  - 第12回 背任罪②【議論で上がった質問に対する追加報告】
  - 第13回 文書偽造罪①【受講者による報告・議論】
  - 第14回 文書偽造罪②【議論で上がった質問に対する追加報告】
  - 第15回 演習全体の総括
- ※受講者の関心に応じて、相談の上で内容と順序を変更する可能性があります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告資料および報告内容(30%)、レポート(40%)、演習中の積極的な発言(30%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各項目の指定テキストを予め読んで、議論の要点をまとめるとともに、筆者の理解に対する自らの評価と追加的な問題提起を考えておいて下さい。  
演習後は、当日の議論の中で提起された問題点について再度検討して下さい。その際には、演習中に紹介された文献と指定テキストで示された参考文献を読むようにして下さい。



# 刑法AIV 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

レジюме、その他プレゼンテーションソフトを利用した資料を作成し、事前に大学の学習支援システムにアップロードして下さい。  
刑法総論および刑法各論を一通り学んでいることが前提とされます。基本的には、刑事法分野で修士論文を執筆する予定の大学院生を念頭にお  
いていますが、それ以外の大学院生にも配慮したいと思います。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院の演習では、テキストを正確に理解するのはもちろんのこと、筆者の説明に疑問を持つこと、そして自らの意見を示すことが求められま  
す。教員も含めて少人数での実施が予想されますので、受講生一人一人の積極的な参加が必要不可欠であることを肝に命じて下さい。

## キーワード /Keywords

刑事法学 刑法総論 刑法各論

# 刑法BIII【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑法分野の知識を修得する。
技能		
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

刑法BⅢ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

修士論文を執筆するための基礎的な研究を進める。受講者が選定したテーマ（課題）についての日本法とドイツ法の理論状況を考察する。各テキストの論文テーマに該当する箇所を精読して、摘要をまとめる。

## 教科書 /Textbooks

開講後に受講生と相談して決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

対象とする文献を要約することから始めて、問題点、問題状況および理論状況を明らかにする。詳細は受講生と相談して決定する。

- 1回 ガイダンス(方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2回 論文テーマの検討
- 3回 問題の所在の検討
- 4回 参考文献の整理と検討
- 5回 基本書の購読と摘要の検討(日本の学説)
- 6回 基本書の購読と摘要の検討(日本の判例)
- 7回 コメントールの購読と摘要の検討(日本の学説)
- 8回 コメントールの購読と摘要の検討(日本の判例)
- 9回 基本書の購読と摘要の検討(ドイツの学説)
- 10回 基本書の購読と摘要の検討(ドイツの判例)
- 11回 コメントールの購読と摘要の検討(ドイツの学説)
- 12回 コメントールの購読と摘要の検討(ドイツの判例)
- 13回 日本とドイツの学説の概要
- 14回 日本とドイツの裁判例の概要
- 15回 最終レポートの提出・まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジюмеを含む)...50% 討論および発言内容...50%  
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

摘要の作成など指示された予習を行って授業に臨みなさい。また、授業で指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえで摘要を再作成しなさい。

## 履修上の注意 /Remarks

刑法(刑法総論および刑法各論)をひと通り学んでいること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い内容となるので、留意すること。

# 刑法BIII 【夜】

## キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

# 刑法BIV【夜】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		刑法BIV

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

これまでの日本の法理論の理解、ドイツをはじめとする諸外国の法理論の理解をもとにして、受講者が選定したテーマ（課題）について、日本および諸外国の法理論と対比しながら、自己の見解をまとめ、論証する。修士論文を執筆することを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

開講後に受講生と相談して決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜必要と思われる文献・資料を紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各回の課題についてレポートを作成し、事前に提出する。詳細は受講生と相談して決定する。

- 1 回 ガイダンス (方針の説明・報告テーマの配分など)
- 2 回 自説の提立と論証の批判的検討
- 3 回 日本の判例の検討
- 4 回 日本の下級審裁判例の検討
- 5 回 日本の判例理論の整理
- 6 回 日本の学説の検討 (通説について)
- 7 回 日本の学説の検討 (反対説について)
- 8 回 論文テーマの中間報告
- 9 回 外国裁判例の比較法的検討
- 10 回 ドイツ法 (または / および英米法) における学説の検討
- 11 回 日本法理論と自己の見解の対比的検討
- 12 回 外国法理論と自己の見解の対比的検討
- 13 回 草稿の提出と批判的検討
- 14 回 修正箇所を検討
- 15 回 最終論文の提出・まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 (レポート・レジユメを含む) ... 50% 討論および発言内容... 50%  
※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

摘要の作成など指示された予習を行って授業に臨みなさい。また、授業で指摘された事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえで摘要を再作成しなさい。

## 履修上の注意 /Remarks

刑法 (刑法総論および刑法各論) をひと通り学んでいること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い内容となるので、留意すること。

# 刑法BIV 【夜】

## キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

# 刑事訴訟法Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

## 【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑事訴訟法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

刑事訴訟法Ⅲ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義において、受講者がゼミナール形式の演習を通じて具体的事例を中心に刑事訴訟の基本構造、特に捜査の終結までについて理解することを目的とする。簡潔且つ明瞭な解説を行いながら密度の濃い内容を提供し、未知の問題にも、原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

参考例：渡辺直行『入門刑事訴訟法〔第2版〕』（成文堂、2013年）、大久保隆志『刑事訴訟法』（新世社、2014年）等。受講者の関心によって、指定する教科書は変更することがあります。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

○「刑事訴訟法判例百選〔第9版〕」（有斐閣、2011年）、○「刑事訴訟法の争点」(有斐閣、2013年)等。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、刑事訴訟法の目的と構造
  - 第2回 刑事訴訟の関与者 (1)【法曹三者】
  - 第3回 刑事訴訟の関与者 (2)【その他の訴訟参加者】
  - 第4回 捜査総説
  - 第5回 令状主義と強制処分法定主義
  - 第6回 捜査の端緒
  - 第7回 証拠の収集保全 (1)【捜索・差押え】
  - 第8回 証拠の収集保全 (2)【鑑定、検証等】
  - 第9回 逮捕
  - 第10回 無令状捜索・差押
  - 第11回 勾留
  - 第12回 別件逮捕・勾留に関する問題
  - 第13回 被疑者の取調べ、自己負罪拒否権
  - 第14回 被疑者の防御権、接見交通権に関する問題
  - 第15回 捜査の終結後の事件処理、公訴提起に関わる諸問題、まとめ
- ※受講者の興味関心によって、講義内容は変更になることがあります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席、議論への参加状況(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 刑事訴訟法III 【夜】

キーワード /Keywords

# 刑事訴訟法Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 水野 陽一 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑事訴訟法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

刑事訴訟法Ⅳ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義において、受講者がゼミナール形式の演習を通じて具体的事例を中心に刑事訴訟の基本構造、特に捜査の終結までについて理解することを目的とする。簡潔かつ明瞭な解説を行いながら密度の濃い内容を提供し、未知の問題にも、原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

参考例：渡辺直行『入門刑事訴訟法〔第2版〕』（成文堂、2013年）、大久保隆志『刑事訴訟法』（新世社、2014年）等。受講者の関心によって、指定する教科書は変更することがあります。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○「刑事訴訟法判例百選〔第9版〕」（有斐閣、2011年）、○「刑事訴訟法の争点」（有斐閣、2013年）等。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 公訴の提起（起訴便宜主義、起訴状一本主義）
  - 第2回 審判対象論
  - 第3回 訴因の特定・変更
  - 第4回 訴訟条件
  - 第5回 公判の諸原則、公判期日の手続
  - 第6回 裁判員制度
  - 第7回 被害者参加
  - 第8回 公判の準備（公判前整理手続、証拠開示）
  - 第9回 証拠裁判主義
  - 第10回 自由心証主義、証拠能力と証明力
  - 第11回 違法収集証拠排除法則
  - 第12回 自白法則
  - 第13回 伝聞法則
  - 第14回 裁判
  - 第15回 上訴、再審
- ※受講者の興味関心によって、講義内容が変更となることがあります。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、議論への参加状況(100%)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて内教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks



# 刑事訴訟法Ⅳ【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 刑事学Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑事学分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

刑事学Ⅲ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

「アメリカ犯罪学理論の現状」をテーマとして、以下の文献を輪読・検討します。アメリカ犯罪学研究における理論構築と理論検証の両側面における最新の動向を検討することによって、犯罪学理論に関する知見を深めることが、本授業のねらいです。

## 教科書 /Textbooks

Francis T. Cullen, John Paul Wright & Kristie R. Blevins (eds.), Taking Stock: The Status of Criminological Theory. (Advances in Criminological Theory Volume 15), New Brunswick, USA: Transaction Publishers, 2006.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

○J. Robert Lilly, Francis T. Cullen, & Richard A. Ball, Criminological Theory: Context and Consequences. (5th ed.), Thousand Oaks, CA: Sage Publications, 2010.

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション ( アメリカ犯罪学理論の現状 )
- 第2回 社会的学習理論
- 第3回 コントロール理論
- 第4回 総合緊張理論
- 第5回 制度的アノミー理論
- 第6回 集合的効力理論
- 第7回 ラディカル犯罪学
- 第8回 ピースメーカー犯罪学
- 第9回 ライフコース犯罪学
- 第10回 Sampson and Laubのライフコース理論
- 第11回 発達論的およびライフコース理論の構築
- 第12回 抑止理論のメタ分析
- 第13回 修復的司法と犯罪
- 第14回 犯罪理論と矯正的介入との関係
- 第15回 犯罪学理論の実証性の評価

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30% 課題...30% レポート...40%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの指定された箇所を事前に読み込んでおくこと。  
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。

## 履修上の注意 /Remarks

刑事法学を一層深く理解したい場合は、刑法および刑事訴訟法などの関連科目の受講をお勧めします。  
英語文献を多読するので、相応の語学力・読解力を必要とします。  
学部時代に犯罪学や刑事司法政策（刑事政策）を履修済みであることが望ましい。

# 刑事学III 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 刑事学Ⅳ【夜】

担当者名 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、刑事学分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

刑事学Ⅳ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

「刑事学調査研究のための統計学」をテーマとして、将来実証的調査研究を実施するうえで必要不可欠な統計学的知識の習得を目指します。アメリカ犯罪学・刑事司法政策の大学院プログラムにおいてテキストとしてよく利用されている基本文献を読み、統計学の基礎を学びます。

## 教科書 /Textbooks

James A. Fox, Jack Levin, & David R. Forde. Elementary Statistics in Criminal Justice Research, 3rd edition. Allyn & Bacon, 2008.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- Earl E. Babbie, The Practice of Social Research, (11 ed.) , Wadsworth Publishing, 2006.
- Michael G. Maxfield & Earl R. Babbie, Research Methods for Criminal Justice and Criminology (with CD-ROM and InfoTrac),(5th ed.), Wadsworth Publishing, 2007.
- Jon L. Proctor & Diane M. Badzinski, Introductory Statistics for Criminal Justice and Criminology. Prentice Hall, 2002.
- E.パビー著 (渡邊聡子監訳) 『社会調査法 1 基礎と準備編』 (培風館、2003年)
- E.パビー著 (渡邊聡子監訳) 『社会調査法 2 実施と分析編』 (培風館、2005年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 なぜ犯罪学者は統計学を利用するのか。
- 第3回 統計データのまとめ(度数分布、百分率、比率、クロス集計)
- 第4回 中心的傾向を表わす測度 (モード、中央値、平均)
- 第5回 練習問題 1
- 第6回 散らばりを表わす測度 (レンジ、分散、標準偏差)
- 第7回 確率と正規曲線
- 第8回 確率変数と確率分布
- 第9回 標本と母集団
- 第10回 サンプルング
- 第11回 練習問題 2
- 第12回 統計的推論の考え方 (標本分布、標準誤差、信頼区間)
- 第13回 統計的検定の考え方 (仮説検定、有意水準、標本平均に基づく仮説検定、比率の検定)
- 第14回 分散分析 (ANOVA)と $\chi^2$ 乗検定
- 第15回 練習問題 3

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10% 練習問題...90%

# 刑事学Ⅳ【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの指定された箇所を事前に読み込んでおくこと。  
授業後には各自論点整理ノートなどを作成するなどして、知識と理解の整理をすること。  
練習問題を数多く解いていくので、予習および復習にそれなりの時間をとることが必要です。

## 履修上の注意 /Remarks

「刑事学Ⅲ」と「刑事学Ⅳ」は、一体的なものとして運営していくので、受講生は両方あわせて履修することを薦めます。主要単元毎に3回「練習問題」を実際に解いていきますので、関数計算可能な卓上電卓を用意しておくこと。  
統計学の英文テキストを読むので、英語の読解力を必要とします。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学部時代に統計学を履修していることが望ましいが、未修の場合であっても英語の読解力があれば十分に理解できる内容となっています。

## キーワード /Keywords

# 労働法Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、労働法分野の知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力と多角的な視点から、労働問題の解決策に関する議論を展開することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

労働法Ⅲ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、労働法に関する具体的な事例を素材として、現在の労働法がどのようなルールを採用しているかを把握し、そのルールが本当に正しいかを受講者全員で議論するものです。労働をめぐる現代的な諸課題に関する議論を通じて、労働法に関する専門的知識を修得すること、一定の結論に至ることのできる能力を涵養すること、これらの点に本講義の目的があります。

## 教科書 /Textbooks

大内伸哉編著『労働法演習ノート』（弘文堂、2011年）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

○土田道夫『労働契約法 第2版』（有斐閣、2016年）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の進め方の説明、自己紹介、報告担当の割当。
- 第2回 学生による報告【解雇規制】
- 第3回 学生による報告【採用内定取消】
- 第4回 学生による報告【就業規則の変更による労働条件の不利益変更】
- 第5回 学生による報告【人事考課】
- 第6回 学生による報告【配転、出向】
- 第7回 学生による報告【休職】
- 第8回 学生による報告【懲戒処分】
- 第9回 学生による報告【期間満了による労働契約の終了】
- 第10回 学生による報告【労働者派遣】
- 第11回 学生による報告【ワークライフバランス】
- 第12回 学生による報告【男女差別】
- 第13回 学生による報告【労働時間】
- 第14回 学生による報告【労働災害】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告...30% 発言の度合い・授業態度...40% レポート...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

普段から労働問題に関心を持って情報を収集するとともに（事前学習）、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること（事後学習）が重要です。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 労働法III 【夜】

キーワード /Keywords

# 労働法Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、労働法分野の知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力と多角的な視点から、労働問題の解決策に関する議論を展開することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

労働法Ⅳ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義では、最近の労働判例を取り上げ、分析、検討を行います。報告者による判例報告の後にディスカッションを行う形で講義を進めます。最近の労働判例を批判的な観点に基づいて分析、検討することにより、望ましい労働紛争の解決のための視点を養うところに本講義の目的があります。

## 教科書 /Textbooks

とくになし。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜、紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 報告者による判例報告【配転】
- 第3回 報告者による判例報告【出向】
- 第4回 報告者による判例報告【就業規則の変更による労働条件の不利益変更】
- 第5回 報告者による判例報告【解雇権濫用規制】
- 第6回 報告者による判例報告【採用内定取消】
- 第7回 報告者による判例報告【労働時間の概念】
- 第8回 報告者による判例報告【過労死、過労自殺】
- 第9回 報告者による判例報告【企業組織の変更と労働契約】
- 第10回 報告者による判例報告【労働者派遣】
- 第11回 報告者による判例報告【パートタイム労働】
- 第12回 報告者による判例報告【期間満了による労働契約の終了】
- 第13回 報告者による判例報告【懲戒処分】
- 第14回 報告者による判例報告【男女差別】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、発言の度合い...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

普段から労働問題に関心を持って情報を収集するとともに(事前学習)、文献等を通じて授業で扱った内容をさらに深く学習すること(事後学習)が重要です。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



# 労働法Ⅳ【夜】

キーワード /Keywords

# 社会保障法Ⅲ【夜】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者や高度専門職業人として活躍するために必要な社会保障法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題に対し、法学的観点から分析し議論を展開することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会保障法Ⅲ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、受講者による報告・討論を行う。  
受講者と相談のうえ、外国語文献を講読することも考えられる。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。受講者の関心に応じ、適宜資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、論点を設定し、それに関する学術論文を検討することを通じて、社会保障法の重要な諸問題についての理解を深める。  
具体的な進行の仕方や内容等については、受講生と相談の上決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初回テーマの設定・文献の選択
- 第3回 テーマ①（年金領域）に関する文献の講読・討論（1）～論点の設定～
- 第4回 テーマ①に関する文献の講読・討論（2）～各論点に関する分析～
- 第5回 テーマ①に関する文献の講読・討論（3）～他の視点の提示と比較分析～
- 第6回 テーマ①のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
- 第7回 テーマ②（生活保護領域）に関する文献の講読・討論（1）～論点の設定～
- 第8回 テーマ②に関する文献の講読・討論（2）～各論点分析～
- 第9回 テーマ②に関する文献の講読・討論（3）～他の視点提示と比較分析～
- 第10回 テーマ②のまとめと次回テーマの設定・文献の選択
- 第11回 テーマ③（労働保険領域）に関する文献の講読・討論（1）～論点の設定～
- 第12回 テーマ③に関する文献の講読・討論（2）～各論点分析～
- 第13回 テーマ③に関する文献の講読・討論（3）～他の視点提示と比較分析～
- 第14回 テーマ③に関するまとめ
- 第15回 総まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。  
必要に応じてレポートを課すこともある。

受講態度等参加の度合い...50% 報告内容...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- （事前学習） 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- （事後学習） 学習した内容を振り返り、知識を定着させ、自身の問題関心に役立てる。

# 社会保障法Ⅲ【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 社会保障法Ⅳ【夜】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者や高度専門職業人として活躍するために必要な社会保障法分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題に対し、法学的観点から分析し議論を展開することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会保障法Ⅳ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

社会保障法に関して近年議論されている理論的諸問題を取り上げ、受講者による報告・討論を行う。  
受講者と相談のうえ、外国語文献を講読することも考えられる。

## 教科書 /Textbooks

使用しない。受講者の関心に応じ、適宜資料を配布する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特になし。必要に応じ、適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎回、論点を設定し、それに関する学術論文を検討することを通じて、社会保障法の重要な諸問題についての理解を深める。  
具体的な進行の仕方や内容等については、受講生と相談の上決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 初回テーマ・文献の選択
- 第3回 テーマ①（高齢者福祉領域）に関する文献の講読・討論（1）～論点の設定～
- 第4回 テーマ①に関する文献の講読・討論（2）～各論点分析～
- 第5回 テーマ①に関する文献の講読・討論（3）～他の視点提示と比較分析～
- 第6回 テーマ①のまとめと次回テーマ・文献の選択
- 第7回 テーマ②（障がい者福祉領域）に関する文献の講読・討論（1）～論点の設定～
- 第8回 テーマ②に関する文献の講読・討論（2）～各論点分析～
- 第9回 テーマ②に関する文献の講読・討論（3）～他の視点提示と比較分析～
- 第10回 テーマ②のまとめと次回テーマ・文献の選択
- 第11回 テーマ③（児童福祉領域）に関する文献の講読・討論（1）～論点の設定～
- 第12回 テーマ③に関する文献の講読・討論（2）～各論点分析～
- 第13回 テーマ③に関する文献の講読・討論（3）～他の視点提示と比較分析～
- 第14回 テーマ③のまとめ
- 第15回 総まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、発言等を総合的に判断し、評価する。  
必要に応じてレポートを課すこともある。

受講態度等参加の度合い...50% 報告内容...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- （事前学習） 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- （事後学習） 学習した内容を振り返り、知識を定着させ、自身の問題関心に役立てる。

# 社会保障法Ⅳ【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

社会保障法に関する一応の基本的知識を持っていることが望ましい。毎回設定されるテーマについての一般的な知識については、各自予習を求める。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際法Ⅲ【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、国際法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		国際法Ⅲ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本クラスでは、人権にかかわる国際法の判断を含む日本の国内裁判所の判決を取り上げ、検討を行っていくことを通じ、国際人権法に関する基本的知識やその運用の実態の理解を深めるとともに、日本における人権の保障状況について考える力を養うことを目的としています。受講者の国際法の習熟度にもよりますが、まずは国際人権保障システムの現状や国内法制と国際法との関係など、背景知識となる総論部分の理解を深める作業を行います。次に日本の国内裁判所の判決の検討作業を通じ、国際的な人権基準が具体的事案の中で実際にどのように国内に適用されていくのかについての理解を深める作業を行っていきます。国際法では、人種差別撤廃条約に焦点を当てます。実際にどのような判決を読むかは、受講者と相談の上、決定していくこととします。

## 教科書 /Textbooks

テキストは、とくに指定しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

薬師寺公夫ほか『法科大学院ケースブック国際人権法』（日本評論社・2006年）○  
 芹田健太郎＝薬師寺公夫＝坂元茂樹編『ブリッジブック国際人権法』（信山社・2008年）  
 その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 判例検索システムの利用方法，研究対象判例の選定
- 第3回 国連と人権の国際的保障枠組み
- 第4回 国際人権保障システム① 【基準設定活動】
- 第5回 国際人権保障システム② 【監視活動（UPR，Treaty Bodyにおける報告制度等）】
- 第6回 国際法と国内法との関係 【二元論と一元論】 【受容と変型】 【条約の国内適用：自動執行力】
- 第7回 判例研究I①（精読：事実関係の明確化）
- 第8回 判例研究I②（精読：争点の整理，論点の抽出）
- 第9回 判例研究I③（報告担当者による判例報告）
- 第10回 判例研究II①（精読：事実関係の明確化）
- 第11回 判例研究II②（精読：争点の整理，論点の抽出）
- 第12回 判例研究II③（報告担当者による判例報告）
- 第13回 判例研究III①（精読：事実関係の明確化）
- 第14回 判例研究III②（精読：争点の整理，論点の抽出）
- 第15回 判例研究III③（報告担当者による判例報告）

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。  
 また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

## 国際法Ⅲ【夜】

### 履修上の注意 /Remarks

クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められます。  
学部時代の国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組立にも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。  
まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国内裁判所でも、判決を出す場合に、国際法の適用が問題になるケースが多々あります。「なま」の判決を一緒に紐解いていってみませんか。

### キーワード /Keywords

【国際人権法】 【実体法と手続法】 【基準設定活動】 【監視活動】 【国際法と国内法との関係】 【国内裁判所】 【判決】 【人種差別撤廃条約】

# 国際法Ⅳ【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、国際法分野の知識を修得する。
技能		
態度		
※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		国際法Ⅳ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国連の設立基本条約である国連憲章を取り上げ、それを逐条的に検討していくことを通じ、国際機構法についての理解を深めることを目的とします。国連憲章の条文ごとに、同規定はどのように一般的に解されているのか、また、同規定に対する国連の実行はどのような特徴を示しているのか、について検討していきます。  
今年度は、とくに国際司法裁判所の組織や活動と関連する国連憲章の条項について取り上げようと考えています。

## 教科書 /Textbooks

Bruno Simma, The Charter of the United Nations; A Commentary, Oxford Univ. Press, 1994  
United Nations, Repertory of Practice of the United Nations, On web-site, www.un.org

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

田岡良一『国際連合憲章の研究』（有斐閣，1949年）○  
藤田久一『国連法』（東京大学出版会，1998年）○  
なお、その他の参考文献に関しては、指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 United Nations, Repertory of Practice of the United Nationsの利用の仕方
- 第3回 国際司法裁判所の組織構造
- 第4回 国際司法裁判所の機能①：判決 ( Judgement )
- 第5回 国際司法裁判所の機能②：勸告的意見(Advisory Opinion)
- 第6回 国連の実行の検討 国連憲章第92条① Bruno Simma
- 第7回 国連の実行の検討 国連憲章第92条② UN Reprtory
- 第8回 国連の実行の検討 国連憲章第93条① Bruno Simma
- 第9回 国連の実行の検討 国連憲章第93条② UN Reprtory
- 第10回 国連の実行の検討 国連憲章第94条① Bruno Simma
- 第11回 国連の実行の検討 国連憲章第94条② UN Reprtory
- 第12回 国連の実行の検討 国連憲章第95条① Bruno Simma
- 第13回 国連の実行の検討 国連憲章第95条② UN Reprtory
- 第14回 国連の実行の検討 国連憲章第96条① Bruno Simma
- 第15回 国連の実行の検討 国連憲章第96条② UN Reprtory

## 成績評価の方法 /Assessment Method

クラスへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。  
クラスへの参加...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。  
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。



## 国際法Ⅳ【夜】

### 履修上の注意 /Remarks

ある程度の英語の力が必要となります。1週間に10ページ程度の資料を読んでいくため、クラスへの参加にあたっては、十分な予習が求められることとなります。

学部時代の国際法の既習、未習は問いません。ただし未習の場合は、授業の組み立てにも関係しますから、受講申告前に一度ご相談ください。まずはninomiya@kitakyu-u.ac.jpまで。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国連憲章の条文を日本語と英語で比較検討してみたことがありますか。語句(単語)どうしの相関関係を理解しておく、国連に関する英語の資料を読むのが少しは楽になりますよ。また国連憲章の正文には、英語のほかに、中国語、フランス語、ロシア語、スペイン語で書かれたものがあります(あとアラビア語も公用語にはなっています)ので、いかがですか。

### キーワード /Keywords

【国際司法裁判所(ICJ)】 【国連憲章】 【国際司法裁判所規程】 【判決】 【拘束力】 【履行と執行】 【勧告的意見】 【法律問題】 【要請できる機関】

# 日本法制史Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、日本法制史分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本法制史Ⅲ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

東洋・西洋を問わず様々な法と制度の影響を受けて形成されてきた日本の法を考える上で、その歴史的前提に遡って検討を加えることは、現代法をより深く理解するうえで有益な営為であると考えられます。  
本科目は、近代日本法の前提をなすが国の法制やそれを支えた権力の特質について、特に江戸時代の刑事法及び行政関連諸法の形成や運用の実態を中心として学んでいきます。学習にあたっては、指定のテキストを出発点としつつも、西欧法制や明治期以降の日本の法や権利をめぐる諸問題との積極的な比較を行っていく予定です。  
またこうした学習を行っていくにあたり、情報検索やプレゼンテーションの方法論についても意識的に取り組んでいきます。

## 教科書 /Textbooks

高塩博『近世刑罰制度論考—社会復帰を目指す自由刑』（成文堂・2013年）  
このほか、進度に応じて適宜指定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』（青林書院・2010年）(図書館蔵書：○)  
水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』（山川出版社・2001）(図書館蔵書：○)  
このほか参加者の興味関心に応じ、適宜紹介していきます。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献の調べ方・プレゼンテーション・質疑応答の留意点についての小講義を行います。
- 第3回 各参加者による報告・議論【参考図書「序章」】
- 第4回 各参加者による報告・議論【参考図書「第一章：松平藩の「溜」制度について」】
- 第5回 各参加者による報告・議論【参考図書「第二章：丹後田辺藩の「徒罪」について」】
- 第6回 各参加者による報告・議論【参考図書「第三章：丹後田辺藩の博打規定と「徒罪」】】
- 第7回 各参加者による報告・議論【参考図書「第四章：津藩の「揚り者」という刑罰】】
- 第8回 中間総括（これまでの報告範囲を振り返ります）
- 第9回 各参加者による報告・議論【参考図書「第五章：庄内藩の「人足溜場」について」】
- 第10回 各参加者による報告・議論【参考図書「第六章：長岡藩の「寄場」について」】
- 第11回 各参加者による報告・議論【参考図書「第六章補遺：長岡藩「寄場」に関する史料紹介】】
- 第12回 各参加者による報告・議論【参考図書「附：和歌山藩の徒刑策草案】】
- 第13回 各参加者による報告・議論【参考文献のまとめ】
- 第14回 参考文献関連テキストの確認と紹介
- 第15回 演習全体の総括討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。
1. 演習における議論への参加状況(30%)
  2. 演習における報告(30%)
  3. 期末レポート(40%)

# 日本法制史Ⅲ【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

### 【事前学習】

報告担当者は事前にレジユメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。

### 【事後学習】

演習中でなされた議論を整理して期末レポートに備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

## 履修上の注意 /Remarks

質問・相談は随時受け付けます。

演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

日本法制史 / 近世法制史 / 幕府法 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

# 日本法制史Ⅳ【夜】

担当者名 山口 亮介 / Ryosuke Yamaguchi / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、日本法制史分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本法制史Ⅳ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本科目は、1学期開講科目「日本法制史Ⅰ」に引き続いて、近代日本法の前提をなすわが国の法制やそれを支えた権力の特徴について、特に江戸時代の法と権利をめぐる諸問題について統治と支配の要請という視点から検討を行っていく予定です。

## 教科書 /Textbooks

石井紫郎『日本人の法生活』（東京大学出版会・2012年）  
このほか、進度に応じて適宜指定します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫編『日本法制史』（青林書院・2010年）( 図書館蔵書：○ )  
水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』（山川出版社・2001）( 図書館蔵書：○ )  
このほか参加者の興味関心に応じ、適宜紹介していきます。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 各参加者による報告・議論【教科書第1章「日本人のアイデンティティと歴史認識覚書」】
- 第3回 各参加者による報告・議論【教科書第2章「「イエ」と「家」】】
- 第4回 各参加者による報告・議論【教科書第3章「戦士身分と正統な支配者」】
- 第5回 各参加者による報告・議論【教科書第4章「財産と法」】
- 第6回 各参加者による報告・議論【教科書第5章「ゲヴェーレの学説史に関する一試論」】
- 第7回 各参加者による報告・議論【教科書第6章「「知行」論争の学説史的意義」】
- 第8回 中間総括（これまでの報告範囲を振り返ります）
- 第9回 各参加者による報告・議論【教科書第7章「「知行」小論」】
- 第10回 各参加者による報告・議論【教科書第8章「西欧近代的所有権概念継受の一齣」】
- 第11回 各参加者による報告・議論【教科書第9章「占有訴権と自力救済」】
- 第12回 各参加者による報告・議論【教科書第10章「「かむやらひ」と「はらへ」】】
- 第13回 各参加者による報告・議論【教科書第11章「外から見た盟神探湯」】
- 第14回 各参加者による報告・議論【教科書第13章「古代国家の刑事「裁判」素描」】
- 第15回 演習全体の総括討論

## 成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います(括弧内は評価の割合)。
1. 演習における議論への参加状況(30%)
  2. 演習における報告(30%)
  3. 期末レポート(40%)

## 日本法制史Ⅳ【夜】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

#### 【事前学習】

報告担当者は事前にレジユメを作成し、参加人数分出力をして持参してください。各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえでゼミに臨んでください。

#### 【事後学習】

演習中でなされた議論を整理して期末レポートに備えるとともに、担当教員により紹介されたテキスト等を読み進めてください。

### 履修上の注意 /Remarks

質問・相談は随時受け付けます。

演習を欠席する場合は、必ず担当教員に連絡をしてください。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

日本法制史 / 近世法制史 / 幕府法 / 西洋法制史 / 近代法制史 / 基礎法学

# 法哲学Ⅲ【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、法哲学分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

法哲学Ⅲ

## 授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義のテーマとする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談して決定する。

## 教科書 /Textbooks

具体的なテキストの候補の一つとして、現代ドイツにおける社会哲学の第一人者とも言うべきユルゲン・ハーバーマスの『事実性と妥当性 - 法と民主的法治国家の討議理論に关する研究-(上)』（未来社）を想定している。ただし、これはあくまでも暫定的なものであり、テキストの選定や具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ~ テキスト選択など
- 第2回 選択したテキストについての概要報告
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【事実性と妥当性】
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【法的妥当性】
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【社会学的法理論】
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【哲学的正義論】
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【私的自律と公的自律】
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【討議原理と民主主義原理】
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【コミュニケーション的権力】
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【法治国家の諸原理】
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【法の不確定性】
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【裁判の合理性】
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【自由主義的法パラダイム】
- 第14回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【憲法裁判】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやノートやレジュメをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

# 法哲学III 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法 権利 正義

# 法哲学Ⅳ【夜】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、法哲学分野の知識を修得する。
技能	○	多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度		

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

法哲学Ⅳ

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

広い意味で法・権利・正義に関する基礎的考察を本講義の主題とする。具体的なテーマ設定は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。

## 教科書 /Textbooks

具体的なテキスト・内容は、受講生の研究テーマを勘案したうえで、受講生と相談の上決定する。暫定的には、ユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性 - 法と民主的法治国家の討議理論に关する研究-(下)』（未来社）、またはヘーゲル（上妻精他訳）『法の哲学（上巻）（下巻）』（岩波書店）のうち、いずれか一方の精読・検討を候補として考えている。ただし、受講生と相談のうえ、受講生の問題関心に依りて、上記以外のテキストをとりあげる場合もある。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

選択したテキストに応じて、適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ~ テキスト選択など
- 第2回 選択したテキストについての概要報告
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【協力的政治】
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【民主的手続きと中立性】
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【政治的公共圏】
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【権力循環】
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【公共的意見】
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【私法の実質化】
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【法的平等と事実に基づく平等】
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【手続き主義的法理解】
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【合法性による正統性】
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【法治国家の理念】
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【手続きとしての国民主権】
- 第14回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【ナショナル・アイデンティティ】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、質問を考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやノートやレジュメをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor



# 法哲学Ⅳ【夜】

キーワード /Keywords

法 権利 正義

# 法律実務特講II 【夜】

担当者名 /Instructor 末廣 清二 / 北方キャンパス 非常勤講師, 小宮 香織 / 北方キャンパス 非常勤講師  
根岸 大将 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

### 【研究者コース・専修コース（法学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者または高度専門職業人として活躍するために必要な、法律実務の知識を修得する。
技能	○	法律実務の実際を理解し、多様な法的問題や特定の課題について、批判的に分析し、論理的に思考し議論することができる。
態度	○	理論と実務とのつながりを理解し、現実社会で生起する法律問題に積極的かつ柔軟に対処する姿勢を身につける。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

法律実務特講II

※ 政策科学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

### 授業の概要 /Course Description

- ① 刑事弁護実務（担当 弁護士根岸大将）
- ② 法律相談の実務（担当 弁護士小宮香織）
- ③ 債権回収・倒産処理（担当 弁護士末廣清二）

### 教科書 /Textbooks

なし。講義の際にレジメを配布する予定。

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

講義の際に紹介する。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 刑事弁護実務
  - 第1回 捜査段階の弁護活動
  - 第2回 続・捜査段階の弁護活動
  - 第3回 公判段階の弁護活動
  - 第4回 事実認定・弁論
  - 第5回 裁判員裁判
- ② 法律相談に際して生ずる諸問題について検討する。
  - 第1回 弁護士業務における「法律相談」の占める位置（法律相談は入り口である。）
  - 第2回 典型的な民事事件の相談事案（具体的事件に即し）
  - 第3回 家事事件（夫婦関係・相続問題）相談事案（同上）
  - 第4回 交通事故・刑事事件の法律相談（同上）
  - 第5回 ひるがえって、改めて法律相談の位置づけについて・その他
- ③ 債権回収・倒産処理
  - 第1回 民事保全手続きによる債権の保全
  - 第2回 担保権に基づく債権回収
  - 第3回 民事執行手続きによる債権回収
  - 第4回 法的倒産処理手続き
  - 第5回 私的整理手続き

### 成績評価の方法 /Assessment Method

試験またはレポートいずれかで評価。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記①は刑事法，上記②③は民事法の基礎的知識を前提とするものであるから，各自学部で習ったことを復習しておくこと。

### 履修上の注意 /Remarks

# 法律実務特講II 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 憲法特別研究II 【夜】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、憲法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、憲法分野について主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

憲法特別研究II

## 授業の概要 /Course Description

受講者の研究テーマに応じて、関連する憲法学的知見を学び、学説、判例を検討し、問題意識を深めることを通じて、修士論文ないし特定課題研究へ向けた準備を行うことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

なし

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講者の研究テーマに応じて、適宜指導する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス -講義の概要説明
- 第2回 研究テーマの確認
- 第3回 取り上げる文献や判決の決定
- 第4回 基本書読解① -研究テーマに関する部分の報告I
- 第5回 基本書読解② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第6回 基本書読解③ -研究テーマに関する部分の報告II
- 第7回 基本書読解④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第8回 専門文献読解① -研究テーマに関する専門文献の報告I
- 第9回 専門文献読解② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第10回 専門文献読解③ -研究テーマに関する専門文献の報告II
- 第11回 専門文献読解④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第12回 専門文献読解⑤ -研究テーマに関する専門文献の報告III
- 第13回 専門文献読解⑥ -前回報告に基づく議論・検討III
- 第14回 研究テーマの再検討
- 第15回 前半のまとめ
- 第16回 判例研究① -研究テーマに関連する判決の報告I
- 第17回 判例研究② -前回報告に基づく議論・検討I
- 第18回 判例研究③ -研究テーマに関連する判決の報告II
- 第19回 判例研究④ -前回報告に基づく議論・検討II
- 第20回 判例研究⑤ -研究テーマに関連する判決の報告III
- 第21回 判例研究⑥ -前回報告に基づく議論・検討III
- 第22回 論文作成へ向けて① -テーマの明確化
- 第23回 論文作成へ向けて② -全体構成I
- 第24回 論文作成へ向けて③ -全体構成II
- 第25回 論文作成へ向けて④ -全体構成III
- 第26回 論文作成へ向けて⑤ -収集文献・資料の再検討I
- 第27回 論文作成へ向けて⑥ -収集文献・資料の再検討II
- 第28回 論文作成へ向けて⑦ -収集文献・資料の再検討III
- 第29回 論文作成へ向けて⑧ -工程表の確定
- 第30回 まとめ

# 憲法特別研究II 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

各回の研究報告内容：50%、議論・検討への参加状況：50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、各回の課題や研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。それをもとにして議論を行い、次回の報告に反映させること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 民法特別研究II 【夜】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、民法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、民法分野について主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

民法特別研究II

## 授業の概要 /Course Description

民法の中の物権の分野について研究をしたい。物権分野の数々の論点について、いわゆる判例や学説の議論を見ながら、私見を考えてゆく。この科目は、主として研究者を目指す人が履修する科目であるので、研究者の議論を重視し、参加者による報告を基礎に進めてゆきたい。この科目を履修することで、研究者の視点で民法を考える能力が養われるであろう。

## 教科書 /Textbooks

物権法の本であれば、なんでも良い。と言うか、物権法の主要な本はすべて見る必要がある。図書館で、随時、物権に関連する書籍を参照してほしい。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 我妻栄『近代法における債権の優越的地位』（有斐閣）
- 川島武宜『所有権法の理論』（岩波書店）

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 ガイダンス                  | 2 物権と債権の違いに関する諸問題        |
| 3 物権法定主義をめぐる諸問題          | 4 慣習法上の物権をめぐる諸問題         |
| 5 物権的請求権をめぐる諸問題          | 6 物権行為をめぐる諸問題            |
| 7 所有権の移転時期をめぐる諸問題        | 8 公示制度をめぐる諸問題            |
| 9 登記請求権をめぐる諸問題           | 10 177条の第三者の客観的範囲をめぐる諸問題 |
| 11 177条の第三者の主観的範囲をめぐる諸問題 | 12 無効・取消・解除と登記をめぐる諸問題    |
| 13 相続と登記をめぐる諸問題          | 14 時効と登記をめぐる諸問題          |
| 15 中間省略登記をめぐる諸問題         | 16 動産物権変動をめぐる諸問題         |
| 17 即時取得をめぐる諸問題           | 18 占有をめぐる諸問題             |
| 19 所有権の意義をめぐる諸問題         | 20 相隣関係・囲繞地通行権をめぐる諸問題    |
| 21 付合・混和・加工をめぐる諸問題       | 22 共有をめぐる諸問題             |
| 23 用益物権をめぐる諸問題           | 24 留置権をめぐる諸問題            |
| 25 先取特権をめぐる諸問題           | 26 質権をめぐる諸問題             |
| 27 抵当権をめぐる諸問題            | 28 物上代位をめぐる諸問題           |
| 29 譲渡担保をめぐる諸問題           | 30 その他の非典型担保をめぐる諸問題      |

## 成績評価の方法 /Assessment Method

普段の報告(50%)とレポート(50%)を総合考慮して、評価する。レポートは、学期終了時に提出してもらう。テーマは、物権法の中で特に興味を持った点。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として物権関連の判決を取り扱うので、事前学習(予習)としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

## 履修上の注意 /Remarks

日々、基礎法学関連の本を読むことが望まれる。

# 民法特別研究II 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究者を目指す場合、上記2冊は「必読」文献であり、この2冊をきちんと読むことが、そもそもの出発点であろう。

## キーワード /Keywords

物権、担保物権

# 民法特別研究Ⅱ【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 4単位  
学期 /Semester 1・2学期(バ  
ア) 授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

## 【研究者コース(法律学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、民法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、民法分野について主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

民法特別研究Ⅱ

## 授業の概要 /Course Description

「研究者コース」の院生に論文指導をすることを目的とした授業です。各自の研究に役立つ範囲で、ドイツ民法又はフランス民法に関する外国文献と一緒に読もうと思っています。

## 教科書 /Textbooks

指定はありません。外国文献を購読する場合にはコピーを配布します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じてその都度紹介します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	研究テーマ策定
3回	研究方法の検討
4回	資料調査 - 邦語基本文献・資料の選択
5回	資料調査 - 外国語基本文献・資料の選択
6回	資料調査 - 判例【国内】
7回	資料調査 - 判例【外国】
8回	邦語文献【基本書籍】精読・検討
9回	邦語文献【関係書籍】精読・検討
10回	邦語文献【基本論文】精読・検討
11回	邦語文献【関係論文】精読・検討
12回	邦語補充文献【関係書籍】精読・検討
13回	邦語補充文献【関係論文】精読・検討
14回	邦語文献による論点整理・検討
15回	研究内容の中間報告、夏季休暇中の課題確認
16回	判例の読み方、研究・活用の仕方
17回	基本判例の精読
18回	基本判例の検討
19回	関連判例の精読【最高裁判例】
20回	関連判例の検討【最高裁判例】
21回	関連判例の精読【下級審判例】
22回	関連判例の検討【下級審判例】
23回	判例の整理・活用の仕方の検討
24回	外国語文献の活用の仕方
25回	外国語基本文献の精読
26回	外国語基本文献の内容報告
27回	外国語関係文献の精読
28回	外国語関係文献の内容報告
29回	外国語文献の内容整理・活用の仕方の検討
30回	これまでの研究成果のまとめと次年度に向けた作業内容の確認



# 民法特別研究II 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・10% レポート(200字詰め原稿用紙30枚程度)・・・90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

判例の解説や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生が主体的に取り組むのであれば研究成果は得られません。研究計画に沿って、自ら積極的に報告するとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告に当たってはレジユメを作成してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 民事訴訟法特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 小池 順一

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 4単位  
学期 /Semester 1・2学期(バ  
ア) 授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標  
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース(法律学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、民事訴訟法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、民事訴訟法分野について主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

民事訴訟法特別研究II

授業の概要 /Course Description

「研究者コース」の学生を対象に民事訴訟法についての論文指導を目的とした授業です。各自の研究テーマに応じて、ドイツ民事訴訟法、アメリカ民事訴訟法に関する文献を購読することもあります。

教科書 /Textbooks

指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、各自に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究テーマについての指導I
- 3回 研究テーマについての指導II
- 4回 研究テーマの決定
- 5回 研究資料のリストアップI
- 6回 研究資料のリストアップII
- 7回 研究資料の収集I
- 8回 研究資料の収集II
- 9回 研究資料の収集III
- 10回 文献購読I
- 11回 文献購読II
- 12回 文献購読III
- 13回 文献購読IV
- 14回 研究テーマに応じて論点検討
- 15回 研究テーマに応じて中間ノートの作成
- 16回 関連判例のリストアップI
- 17回 関連判例のリストアップII
- 18回 関連判例の収集I
- 19回 関連判例の収集II
- 20回 関連判例の分析I
- 21回 関連判例の分析II
- 22回 関連判例の分析III
- 23回 判例の整理I
- 24回 判例の整理II
- 25回 判例の整理III
- 26回 外国語文献購読I
- 27回 外国語文献購読II
- 28回 外国語文献購読III
- 29回 研究成果のまとめI
- 30回 研究成果のまとめII

# 民事訴訟法特別研究II 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、各回の報告40%、レポート60%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教員の指導に応じて、各自、資料を収集し、分析して授業に臨むこと。授業において教員に指導された点について、各自、調査し自分の見解を整理すること。

## 履修上の注意 /Remarks

研究計画に沿って、各自が主体的かつ積極的に調査すること。毎回レジюмеを作成して授業に臨むこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 刑事学特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 朴 元奎 / PARK, Won-Kyu / 法律学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 4単位  
学期 /Semester 1・2学期(バ  
ア) 授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース(法律学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、刑事学分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、刑事学分野について主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

刑事学特別研究II

## 授業の概要 /Course Description

受講生の選択した研究テーマについて、主に理論的および方法論的問題に焦点をあてて、英米の重要文献を批判的に検討する。上記の検討を踏まえて、各自の研究テーマに即した「リサーチ・デザイン」の検討・作成に取り組む。

## 教科書 /Textbooks

テキストは特に使用しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じてその都度指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(修士論文とは)
- 第2回 修士論文執筆の作法
- 第3回 研究者の倫理
- 第4回 関心領域(暫定的研究テーマ)の確認
- 第5回 リサーチ・デザインの策定
- 第6回 文献調査(1)――邦語文献収集
- 第7回 文献調査(2)――外国語文献収集
- 第8回 文献調査(3)――第一次文献リスト作成
- 第9回 参考文献についての解説・助言
- 第10回 その他の文献・資料などの分析・検討
- 第11回 テーマの確定
- 第12回 問題設定
- 第13回 分析枠組――論文構成の検討
- 第14回 論文の体裁についての指導
- 第15回 プロスペクタスの提出
- 第16回 中間報告①序論
- 第17回 中間報告②問題設定についての論評及び修正
- 第18回 中間報告③過去の研究又は文献の検討
- 第19回 中間報告④過去の研究又は文献の検討についての論評及び修正
- 第20回 中間報告⑤理論的枠組の検討
- 第21回 中間報告⑥理論的枠組についての論評及び修正
- 第22回 中間報告⑦分析方法の検討
- 第23回 中間報告⑧分析方法についての論評及び修正
- 第24回 中間報告⑨分析結果
- 第25回 中間報告⑩分析結果についての論評及び修正
- 第26回 中間報告⑪結論及び考察
- 第27回 中間報告⑫結論及び考察についての論評及び修正
- 第28回 最終報告
- 第29回 最終報告についての論評及び修正
- 第30回 論文の完成及び提出

# 刑事学特別研究II 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50% レポート...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自ら選択したテーマについて、課題読書として指定された参考文献などを毎回事前に読み込んでおくこと。  
授業終了後には指導教員からのコメントを踏まえ、必要であれば研究計画の修正を図るなど、次回までの授業につながるよう各自の研究内容の整理検討を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

修士論文作成の基礎づくりのために、刑事法関連科目の受講を薦めます。  
社会科学系大学院生向けの「論文の書き方について」の教本を一冊手元に置いておくことが論文執筆には有益です。  
論文の体裁については、各専門領域の学会誌・機関誌の投稿規程(執筆ガイドライン)などを参照しておくことが望まれる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 社会保障法特別研究II 【夜】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース(法律学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、社会保障法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から説得力ある法的議論を展開できる。
態度	◎	自ら問題を発見し、法的観点から分析・議論することを通じて、主体的な研究態度を身につける。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

社会保障法特別研究II

## 授業の概要 /Course Description

社会保障法領域を専門分野として研究を進めたい院生を対象として、関心領域及び周辺領域の知識を深め、自身の修士論文執筆の準備段階として、多くの文献に触れる。

## 教科書 /Textbooks

特に使用しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

特に使用しないが、受講者の関心に応じて、適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス -講義の概要説明
- 第2回 研究テーマの確認
- 第3回 取り上げる文献や判決の決定
- 第4回 基本文献読解① ~研究テーマに関する部分の報告【健康保険】
- 第5回 基本文献読解② ~前回報告に基づく議論・検討
- 第6回 基本文献読解③ ~研究テーマに関する部分の報告【国民健康保険】
- 第7回 基本文献読解④ ~前回報告に基づく議論・検討
- 第8回 専門文献読解① ~研究テーマに関する専門文献の報告【高齢者医療保険】
- 第9回 専門文献読解② ~前回報告に基づく議論・検討
- 第10回 専門文献読解③ ~研究テーマに関する専門文献の報告【医療保障システム比較】
- 第11回 専門文献読解④ ~前回報告に基づく議論・検討
- 第12回 専門文献読解⑤ ~研究テーマに関する専門文献の報告【保険制度比較】
- 第13回 専門文献読解⑥ ~前回報告に基づく議論・検討
- 第14回 研究テーマの再検討と今後の修論執筆計画策定
- 第15回 1学期のまとめ
- 第16回 専門文献読解⑦ ~研究テーマに関連する専門文献の報告【国民保健制度比較】
- 第17回 専門文献読解⑧ ~前回報告に基づく議論・検討
- 第18回 専門文献読解⑨ ~研究テーマに関連する専門文献の報告【医療保障の財源論】
- 第19回 専門文献読解⑩ ~前回報告に基づく議論・検討
- 第20回 専門文献読解⑪ ~研究テーマに関連する専門文献の報告【医療保障請求権】
- 第21回 専門文献読解⑫ ~前回報告に基づく議論・検討
- 第22回~第25回 修士論文作成支援① ~テーマの明確化、全体構成の検討
- 第26回~第29回 修士論文作成支援② ~収集文献・資料の検討と具体的進行計画の策定
- 第30回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告の内容・・・50%、議論・調査への参加状況・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点をまとめる。
- (事後学習) 学習内容を振り返り、知識の定着を図ると同時に、自らの研究に活かす。

# 社会保障法特別研究II 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

研究テーマに応じて、授業進行を変更することもある。  
修士論文作成に向けて、各自の研究を着実にコツコツ進めるよう努力してください。  
授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 国際法特別研究II 【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、国際法分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、国際法分野について主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際法特別研究II

## 授業の概要 /Course Description

受講者の修士論文の作成を支援することを目的とします。  
本講義は、修士論文の作成にあたり、それぞれが選んだテーマとの関連で、必要な国際法上の議論に触れ、その理解を深めるための機会を提供するものです。  
受講者が一人の場合には、個別指導の形式を取り、授業を展開します。したがってこの場合には、各自の問題関心領域のみを勉強してもらっていただく構いません。しかし、受講者が複数いる場合には、演習形式の科目である以上、各受講者には、他の受講者が希望するテーマ、文献等を尊重し、積極的に協力する義務が存在します。つまり、仮に自分の問題関心領域とは異なったテーマであったとしても、他の受講者の研究にも興味を持ち、その発表等に対し、質疑などを通じ、積極的に協力していただきたいということです。受講を希望する者は、このことは忘れてください。

## 教科書 /Textbooks

必要に応じ、受講希望者と相談の上、決定します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

指導の過程で、必要に応じ、適宜、指示していきます。



## 国際法特別研究II 【夜】

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者の能力・人数等を考慮し、受講者と調整をはかりながら、柔軟に運営していきます。

昨年度からの継続指導の該当者はいないので、1年めの指導計画・内容（ほぼ初学者・単独の場合）を例示する。

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 修士論文で扱いたいテーマの確認
- 第3回 テーマに関する資料収集① 邦語文献【書籍・論文】
- 第4回 テーマに関する資料収集② 外国語文献【書籍・論文】
- 第5回 テーマに関する資料収集③ WEB【国内の公的機関等】
- 第6回 テーマに関する資料収集④ WEB【外国の公的機関等】
- 第7回 テーマに関する資料収集⑤ WEB【国際機関】
- 第8回 テーマに関する資料収集⑥ 判例【国内】
- 第9回 テーマに関する資料収集⑦ 判例【外国・国際】
- 第10回 邦語文献を用いた研究の進め方
- 第11回 邦語文献の精読①
- 第12回 邦語文献の精読②（続き）
- 第13回 レジユメを用いた邦語文献の「報告」① 【論文A】
- 第14回 レジユメを用いた邦語文献の「報告」② 【論文B】
- 第15回 1学期進捗状況の振り返りと夏季休暇中の作業の確認  
《夏季休暇》
- 第16回 判例を用いた研究の進め方
- 第17回 判例研究① 判決文の精読
- 第18回 判例研究② 判決文の精読（続き）
- 第19回 判例研究③ 原判決等との比較検討
- 第20回 判例研究④ 判例評釈等の活用
- 第21回 レジユメを用いた判例研究の「報告」
- 第22回 外国語文献を用いた研究の進め方① 語学力の確認
- 第23回 外国語文献を用いた研究の進め方② パラグラフリーディングと論文構造の把握（一読によるあらレジユメの作成）
- 第24回 外国語文献の精読①
- 第25回 外国語文献の精読②（続き）
- 第26回 外国語文献の精読③（続き）
- 第27回 外国語文献の精読④（続き）
- 第28回 レジユメを用いた外国語文献の「報告」
- 第29回 修士論文で扱いたいテーマの明確化
- 第30回 2学期進捗状況の振り返りと2年次に向けての作業の確認

### 成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。  
アサインメントの実施状況...100%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。  
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

### 履修上の注意 /Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。  
なお担当者は、国際公法分野を専門としています。問題関心領域の関連等で、何か質問・懸念等があれば、事前に相談に来られてください。  
まずは [ninomiya@kitakyu-u.ac.jp](mailto:ninomiya@kitakyu-u.ac.jp) まで。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学院の修士時代に、一番勉強した（させられた）という記憶が残っています。確かに大変でしたが、知的好奇心が満たされていく充実感も同時に味わうことができました。この経験・蓄積が今の自分を支えてくれています。  
院生のみなさん、くじけそうになることがあるかも知れませんが、未来を信じて、がんばってください。

### キーワード /Keywords

【修士論文】 【指導】 【国際法】

# 法哲学特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(ベア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、法哲学分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	高度な法的思考力を持ち、総合的な観点から、多様な法的問題を解決することができる。
態度	◎	研究者として自ら問題を発見し、それを論理的・批判的に分析することにより、法哲学分野について主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

法哲学特別研究II

## 授業の概要 /Course Description

研究者コースを履修する学生に、法哲学領域に関する修士論文の作成を指導し、修士論文の構想の確定を目指します。  
その際、「専門基礎科目」や「専門科目」などの学習を通してこれまでに修得してきた、調査研究方法や分析能力、高度な専門知識や総合的観点をベースとして、自らが選択したテーマについて、研究を専門的に深化させていきます。論文の完成に向けて、邦語文献の検討だけでなく、外国語文献の読解・検討も行います。  
授業で扱う具体的なテーマは、受講者の研究内容や問題関心に応じて決定します。

## 教科書 /Textbooks

テキストは、受講者の研究テーマや問題関心に応じて、適宜指示します。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考書は、受講者の研究テーマや問題関心に応じて、適宜指示します。

# 法哲学特別研究II 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに～ 修士論文とは
- 第2回 研究テーマ策定
- 第3回 研究方法の検討
- 第4回 先行研究の調査と基本文献・資料の選定
- 第5回 研究テーマについての文献・資料等の収集と検討①【邦語文献】
- 第6回 研究テーマについての文献・資料等の収集と検討②【外国語文献】
- 第7回 研究テーマについての文献・資料等の収集と検討③【データベース等の利用】
- 第8回 研究テーマに関連する報告と議論①【邦語一次文献】
- 第9回 研究テーマに関連する報告と議論②【邦語二次文献】
- 第10回 研究構想一次報告
- 第11回 研究構想一次報告の検討
- 第12回 研究構想一次報告の修正
- 第13回 研究テーマに関連する報告と議論③【外国語一次文献】
- 第14回 研究テーマに関連する報告と議論④【外国語二次文献】
- 第15回 1学期の進捗状況の確認と夏季休暇中の課題の確認
- 第16回 夏季休暇中の研究進行状況の確認
- 第17回 基本文献の再選定
- 第18回 邦語一次文献についての報告
- 第19回 邦語一次文献についての議論
- 第20回 邦語一次文献報告への論評
- 第21回 邦語二次文献についての報告・議論・論評
- 第22回 外国語一次文献についての報告
- 第23回 外国語一次文献についての議論
- 第24回 外国語一次文献報告への論評
- 第25回 外国語二次文献についての報告・議論・論評
- 第26回 修士論文で利用する文献についての中間総括的報告と議論
- 第27回 修士論文の構想報告
- 第28回 修士論文の構想報告についての議論
- 第29回 修士論文の構想報告の修正
- 第30回 2学期の進捗状況の確認と2年次の課題の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回で扱う予定の文献がある場合は、それを事前にきちんと読み、理解した上で質問を考え予習しておいてください。授業の後は、今回の資料等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

専門基礎科目の「法律文献調査」では、文献調査の方法や引用の仕方なども学びますので、しっかりと習得して下さい。  
なお、外国語文献の読解に必要な英語力は、当然の前提として要求されます。それに加えて、専門として扱う分野によっては、ドイツ語などの第二外国語の習得が必要になる場合もあります。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主体的に研究に取り組む姿勢を尊重したいと考えています。

## キーワード /Keywords

法哲学 研究指導 修士論文

# 私法領域特定課題研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 他

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 4単位  
学期 /Semester 1・2学期(バ  
ア) 授業形態 /Class Format 演習  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	高度専門職業人として活躍するために必要とされる私法分野の専門的・実務的知識を修得している。
技能	○	学部での学習または社会人経験に基づき、私法分野における特定課題を深く掘り下げて研究できる分析能力・思考能力を身につけている。
態度	◎	高度専門職業人または高度な知的素養を有する人材として、地域社会でリーダーシップを発揮できる主体性を有する。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

私法領域特定課題研究II

## 授業の概要 /Course Description

この科目は、「専修コース」の院生を対象に特定課題研究完成にむけた指導を行うことを目的として開講しています。指導の詳細は院生と相談の上決定します。初回ガイダンスには必ず出席してください。

## 教科書 /Textbooks

各担当指導教員から指示があると思います。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

各担当指導教員の紹介する文献を参照してください。

# 私法領域特定課題研究II 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス - 集団指導教員、指導内容の相談
- 2回 代表指導教員による指導 - 研究テーマ、研究内容の検討
- 3回 代表指導教員による指導 - 研究方法の検討、基本文献・資料の選定
- 4回 代表指導教員による指導 - 研究指導計画策定（テーマ別分担指導内容決定）
- 5回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する研究内容確認、基本文献・資料の収集
- 6回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する基本文献・資料の精読
- 7回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する基本文献・資料を用いた研究報告
- 8回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する関係文献・資料の収集
- 9回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する関係文献・資料の精読
- 10回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する基本判例の精読
- 11回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する基本判例の検討
- 12回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する関連判例の精読
- 13回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関する関連判例の検討・整理
- 14回 集団指導教員①による指導 - テーマ①に関するこれまでの研究成果のまとめ、残された課題の確認
- 15回 代表教員による指導 - テーマ①に関する進捗状況の確認と夏季休暇中の作業の確認
- 16回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する研究内容確認、基本文献・資料の収集
- 17回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する基本文献・資料の精読
- 18回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する基本文献・資料を用いた研究報告
- 19回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する関係文献・資料の収集
- 20回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する関係文献・資料の精読
- 21回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する基本判例の精読
- 22回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する基本判例の検討
- 23回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する関連判例の精読
- 24回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関する関連判例の検討・整理
- 25回 集団指導教員②による指導 - テーマ②に関するこれまでの研究成果のまとめ、残された課題の確認
- 26回 代表指導教員による指導 - テーマ①及び②に関する研究の進捗状況と今後の作業内容の確認
- 27回 代表指導教員による指導 - 基本文献・資料による補充指導
- 28回 代表指導教員による指導 - 関係文献・資料による補充指導
- 29回 代表指導教員による指導 - 関係判例による補充指導
- 30回 代表指導教員による指導 - 研究成果の取りまとめと次年度に向けた作業内容の確認

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な取り組み…10% 特定課題研究成果…90%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

判例や基本書を参照しながら、事前に論点を整理しておいてください。また、事後は、報告内容や参考文献を参照しながら、論点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

## 履修上の注意 /Remarks

受講生が主体的に取り組むのであれば研究成果は得られません。研究計画に沿って、自ら積極的に報告するとともに、他の報告者の提供する議論の場にも積極的に参加するよう心がけてください。報告に当たってはレジюмеを作成してください。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 公法領域特定課題研究II 【夜】

担当者名 重松 博之 他  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【専修コース（法律学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	地域社会で中核的な役割を担うべき高度専門職業人にふさわしい公法分野の専門的・実務的知識を修得している。
技能	○	関心を持った公法分野の特定課題を深く掘り下げて研究するための批判的分析能力・論理的思考能力を身に付けている。
態度	◎	自立した高度専門職業人、高度で知的素養のある人材として、地域社会の中でリーダーシップを発揮する積極的・主体的な行動力を有する。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

公法領域特定課題研究II

## 授業の概要 /Course Description

この授業は、専修コースの大学院生が特定課題研究を完成させるための指導を行うことを目的とする。

授業においては、受講者の関心領域と問題意識に応じて特定課題論文を作成することを通して、高度専門職業人または高度で知的な素養のある人材として活躍し得る水準に到達することを目標とする。

## 教科書 /Textbooks

指定しない。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講者の関心領域に応じて、適宜指示する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 ガイダンス
- 2 回 特定課題研究とは何か
- 3 回 関心領域の確認
- 4 回 基礎的文献の選択(1 日本語文献)
- 5 回 基礎的文献の選択(2 外国語文献)
- 6 回 その他の文献の検討(1 判例等)
- 7 回 その他の文献の検討(2 その他)
- 8 回 テーマの確定
- 9 回 構想の検討(1 視角)
- 10回 構想の検討(2 構成)
- 11回 構想の検討(3 結論)
- 12回 使用文献のまとめ(1 主要文献)
- 13回 使用文献のまとめ(2 その他の文献)
- 14回 文献読解状況の報告と検討(主要文献序盤)
- 15回 文献読解状況の報告と検討(主要文献前半)
- 16回 文献読解状況の報告と検討(主要文献中盤)
- 17回 文献読解状況の報告と検討(主要文献後半)
- 18回 文献読解状況の報告と検討(その他の文献序盤)
- 19回 使用文献についての報告と検討(その他の文献前半)
- 20回 使用文献についての報告と検討(その他の文献後半)
- 21回 特定課題研究内容の報告と検討(序論)
- 22回 特定課題研究内容の報告と検討(第1章前半)
- 23回 特定課題研究内容の報告と検討(第1章後半)
- 24回 特定課題研究内容の報告と検討(第2章前半)
- 25回 特定課題研究内容の報告と検討(第2章後半)
- 26回 特定課題研究内容の報告と検討(第3章前半)
- 27回 特定課題研究内容の報告と検討(第3章後半)
- 28回 特定課題研究内容の報告と検討(第4章以下)
- 29回 全体のまとめ(結論)
- 30回 全体のまとめ(総合)

## 公法領域特定課題研究II 【夜】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な取り組み... 10% 特定課題研究成果... 90パーセント

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、該当回の内容を事前に把握し予習しておくこと。授業の後は、配付資料等をもとに、内容を整理し、復習を行うこと。また、自己の関心領域に合わせて文献、資料等を収集し、整理しておくこと。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 政策調査法【夜】

担当者名 /Instructor 政策科学科教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解		
技能	◎	地域社会の諸課題（または特定の政策課題）について、政策を立案・評価（または実践的に提言）するために必要な情報を収集・分析することができる。
態度	○	研究者（または高度専門職業人）として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、政策分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

政策調査法

## 授業の概要 /Course Description

本講義は、これから大学院で研究する学生が、大学院で研究するに際して必要となる（研究の）方法論、調査方法、修士論文執筆のために知っておくべき基本的な知識を提供することにある。大学院での研究といっても、政策科学系の学生は、学生の専門によって方法論等が異なるため、講義は指導教員を中心とした集団指導体制で行うことを予定している。

## 教科書 /Textbooks

教科書は第一回目の講義において担当教員等が指示する予定である。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献は、各回ごとに教員が紹介する予定であるが、とりあえず以下のものを挙げておく。

- 伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法-』（東京大学出版会、2011年）。
- 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』（有斐閣、2010年）。
- 松田憲忠・竹田憲史『社会科学のための計量分析入門-データから政策を考える-』（ミネルヴァ書房、2012年）。
- 真淵勝監訳『社会科学のリサーチ・デザイン：定性的研究における科学的推論』（勤草書房、2004年）。
- ユージン・バーダック(著)、白石賢司他(翻訳)『政策立案の技法-問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ-』（東洋経済新報社、2012年）。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入
2. いかにして政策を研究するのか
3. 先行研究と文献リストの作成
4. リサーチ・クエスションをたてる
5. 仮説をたてる
6. 資料やデータを収集する
7. 仮説を検証する
8. 政策を提言する
9. 論文の書き方
10. 定量的分析と定性的分析
  - 1 1. 定量的分析(1)-調査票の作成
  - 1 2. 定量的分析(2)-サンプリングについて
  - 1 3. 定性的分析(1)-聞き取り調査
  - 1 4. 定性的分析(2)-参与観察法
  - 1 5. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価は、毎回の授業における報告及び授業貢献度（60%）と学期末のレポート（40%）による。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの回の授業担当者の指示に従って授業の準備をしておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。



# 政策調査法 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 政治学III 【夜】

担当者名 /Instructor 中井 遼

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、政治学分野の知識を修得する。
技能	○	社会の政治的課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

政治学Ⅲ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では政治学の研究書を講読する。前期は、現在着目されている政治現象についての研究書を取り扱う。今年は欧州の極右ポピュリスト政党についての新しい文献を取り扱う。

毎回、レジュメ作成担当者を決めるが、授業自体は全員が当該箇所を読んできている前提のもと、議論の確認・内容の検討を行う。参加者が1名しかいない場合については、別途授業方法について考慮する。

## 教科書 /Textbooks

Akkerman, Tjitske, Sarah L. de Lange, and Matthijs Rooduijn eds. (2016) Radical Right-wing Populist Parties in Western Europe: Into the Mainstream? Routledge.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション, 担当決め
- 2 . Akkerman et al. 2016, Ch.1
- 3 . ibid, Ch.2
- 4 . ibid, Ch.3
- 5 . ibid, Ch.4
- 6 . ibid, Ch.5
- 7 . ibid, Ch.6
- 8 . ibid, Ch.7
- 9 . ibid, Ch.8
- 10 . ibid, Ch.9
- 11 . ibid, Ch.10
- 12 . ibid, Ch.11
- 13 . ibid, Ch.12
- 14 . ibid, Ch.13
- 15 . 全体の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション70% タームペーパー30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当セクションは全員が事前に読んできている前提で授業を進める。明らかに読んできていないと見受けられた場合、その回は欠席扱いとする。

## 履修上の注意 /Remarks

前期(政治学Ⅲ)と後期(政治学Ⅳ)はそれぞれ独立した科目とする。前期だけを履修しても良いし、前期履修なしに後期を履修してもよい。

# 政治学III 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 政治学Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 中井 遼

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、政治学分野の知識を修得する。
技能	○	社会の政治的課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

政治学Ⅳ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では政治学の研究書を講読する。後期は、現代政治分析についての有名な研究書を取り扱う。今年は選挙制度と政党政治についての古典文献を取り扱う。

毎回、レジュメ作成担当者を決めるが、授業自体は全員が当該箇所を読んできている前提のもと、議論の確認・内容の検討を行う。参加者が1名しかいない場合については、別途授業方法について考慮する。

## 教科書 /Textbooks

Lijphart, Arend (1994) Electoral Systems and Party Systems: A Study of Twenty-seven Democracies, 1945-1990. Oxford UP.

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . イントロダクション, 担当決め
- 2 . Lijphart 1994, Ch.1
- 3 . ibid, Ch.2 前半
- 4 . ibid, Ch.2 中盤
- 5 . ibid, Ch.2 後半
- 6 . ibid, Ch.3
- 7 . ibid, Ch.4
- 8 . ibid, Ch.5 前半
- 9 . ibid, Ch.5 後半
- 10 . ibid, Ch.6
- 11 . ibid, Ch.7
- 12 . 予備回
- 13 . 関連する独立論文の講読①
- 14 . 関連する独立論文の講読②
- 15 . 全体の総括

## 成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション70% タームペーパー30%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当セクションは全員が事前に読んできている前提で授業を進める。明らかに読んできていないと見受けられた場合、その回は欠席扱いとする。

## 履修上の注意 /Remarks

前期(政治学Ⅲ)と後期(政治学Ⅳ)はそれぞれ独立した科目とする。前期の政治学Ⅲの履修がなくとも本科目は履修可能である。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 政治学Ⅳ【夜】

キーワード /Keywords

# 行政学Ⅲ 【夜】

担当者名 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、行政学分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

行政学Ⅲ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

行政学の学問的現況を学び、行政学の基礎知識を得るとともに、学術面での専門性を養う。とくに過去から現在までの教科書の内容を検討しつつ、行政学で扱われてきた研究分野の移り変わりを明らかにする。また外国文献を読むことで行政学の世界的なトピックを学ぶ。

## 教科書 /Textbooks

嶮山政道(1950)『行政学講義序論』日本評論社。  
辻清明(1976)『行政学講座』①から⑤巻、有斐閣。  
西尾勝・村松岐夫(1994)『講座行政学』①から⑤巻、有斐閣。  
西尾勝(2001)『行政学』有斐閣。  
村松岐夫(2001)『行政学教科書』有斐閣。  
真淵勝(2009)『行政学』有斐閣。  
曾我謙吾(2013)『行政学』有斐閣。  
西尾隆(2016)『現代の行政と公共政策』放送大学出版会。  
縣公一郎(2017)『ダイバーシティ時代の行政学』早稲田大学出版会。  
フレデリクソン、H.G.(1987)『新しい行政学』中央大学出版会。  
Peters, G.B. and T. Erkkilae and P. von Maravic (2015). Public Administration: Research Strategies, Concepts, and Methods, Routledge.  
Stella Z. Theodoulou, Ravi K. Roy. (2016). Public Administration: A Very Short Introduction, Oxford Univ. Pr.

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

なし

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス  
第2回 嶮山政道(1950)『行政学講義序論』日本評論社。  
第3回 辻清明(1976)『行政学講座』①から⑤巻、有斐閣。  
第4回 西尾勝・村松岐夫(1994)『講座行政学』①から⑤巻、有斐閣。  
第5回 西尾勝・村松岐夫(1994)『講座行政学』④から⑤巻、有斐閣。  
第6回 西尾勝(2001)『行政学』有斐閣。  
第7回 村松岐夫(2001)『行政学教科書』有斐閣。  
第8回 真淵勝(2009)『行政学』有斐閣。  
第9回 曾我謙吾(2013)『行政学』有斐閣。  
第10回 西尾隆(2016)『現代の行政と公共政策』放送大学出版会。  
第11回 縣公一郎(2017)『ダイバーシティ時代の行政学』早稲田大学出版会。  
第12回 フレデリクソン、H.G.(1987)『新しい行政学』中央大学出版会。  
第13回 Peters, G.B. and T. Erkkilae and P. von Maravic (2015). Public Administration: Research Strategies, Concepts, and Methods, Routledge.  
第14回 Stella Z. Theodoulou, Ravi K. Roy. (2016). Public Administration: A Very Short Introduction, Oxford Univ. Pr.  
第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

議論の積極性・・・50%、期末レポート・・・50%。

# 行政学Ⅲ【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書等を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 行政学Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

### 【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、行政学分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

行政学Ⅳ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

### 授業の概要 /Course Description

現代行政研究の最近の動向をとりあげて、具体的な現象にも触れながら、検討を行うこととする。とりわけ、近年の行政研究において話題になるようになってきている「ガバナンス」概念に注目する。ガバナンス概念は、分野によってその使用法は異なるが、とりわけイギリス行政学においては、政府機能の拡大に伴うビッグ・ガバメントの成立によって、政府機構を通じた公共的問題の解決能力の限界が明らかにされる中で、各種の公共的問題に対処する複合的な組織間ネットワーク形成が図られるようになってきた状況をとらえる概念として使われている。また、政治や行政が、政府、住民、企業の間で一層の相互依存の深化をみせるようになったことをとらえ、新しい政治と行政のあり方とそれにかかわる主体間の関係をとらえようとする概念だとすることもできる。本講義は、こうしたガバナンス概念に関する議論と分析を中心に進めていく。

### 教科書 /Textbooks

Bell, S and A. Hindmoor, Rethinking Governance, Cambridge University Press.ほか内外の文献。

### 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献は、国内外ともに数えきれないほどあるので、授業中にその都度紹介する。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション(担当者自己紹介、受講者自己紹介、授業のガイダンスなど)
- 第2回 ガバナンス概念についての講義【ガバナンス】【ロッド・ローズ】【ピエールとピーターズ】
- 第3回 ガバナンス概念についての講義【社会中心モデル】【国家中心モデル】
- 第4回 Bell and Hindmoor 第1章【国家中心アプローチ】
- 第5回 Bell and Hindmoor 第2章【国家の再発見】
- 第6回 Bell and Hindmoor 第3章【メタガバナンスと国家の能力】
- 第7回 Bell and Hindmoor 第4章【ハイアラーキーとトップダウンガバナンス】
- 第8回 Bell and Hindmoor 第5章【説得を通じたガバナンス】
- 第9回 Bell and Hindmoor 第6章【市場と契約を通じたガバナンス】
- 第10回 Bell and Hindmoor 第7章【コミュニティ参加を通じたガバナンス】
- 第11回 Bell and Hindmoor 第8章【アソシエーションガバナンス】
- 第12回 Bell and Hindmoor 第9章【結論】【国家中心アプローチ】【社会中心アプローチ】
- 第13回 別文献の購読①【ネットワーク・ガバナンス論】
- 第14回 別文献の購読②【参加型ガバナンス論】
- 第15回 議論とまとめ

### 成績評価の方法 /Assessment Method

期末論文・・・80%、中間論文・・・20%

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

### 履修上の注意 /Remarks

テキストの輪読のためには、相応の準備が必要である。



# 行政学IV 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 政治思想史Ⅲ 【夜】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者（または高度専門職業人）として活躍するために必要な、政治思想史分野の知識を修得する。
技能	○	社会の諸課題（または特定の政策的課題）について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価（または実践的に提言）することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

政治思想史Ⅲ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、ルソーの『社会契約論』の検討を通じて、社会契約論的なものの考え方がどのように歴史的に形成されてきたのか、またそれを現代においてどのように役立てることができるのかを考えていきます。周知のとおり、社会契約論は近代・現代の民主主義社会の展開において重要な役割を果たしています。そこに現れた人間観や社会観、また権力観の意義と課題を検討することが授業の目的です。

## 教科書 /Textbooks

ルソー 『社会契約論 / ジュネーブ草稿』（中山元訳、光文社古典新訳文庫）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会契約論：検討の課題
- 第2回 社会契約論：歴史的展開過程
- 第3回 社会契約論：現代の展開（ロールズを中心に）
- 第4回 イギリスからフランスへ（ホブズ・ロック・ヒュームとルソー）
- 第5回 ルソー『社会契約論』Ⅰ 【第一編】
- 第6回 ルソー『社会契約論』Ⅱ 【第二編】
- 第7回 ルソー『社会契約論』Ⅲ 【第三編】
- 第8回 中間考察
- 第9回 ルソー『社会契約論』Ⅳ 【第四編】
- 第10回 ルソー『社会契約論』Ⅴ 【ジュネーブ草稿】
- 第11回 ルソー後の展開Ⅰ 【ド・メーストル】
- 第12回 ルソー後の展開Ⅱ 【カント】
- 第13回 ルソー後の展開Ⅲ 【ロールズ】
- 第14回 社会契約論の今日的意義
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告、授業への取り組み...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず文献を読んでおくこと。また授業後には授業中の議論のポイントをまとめておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 政治思想史Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、政治思想史分野の知識を修得する。
技能	○	社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

政治思想史Ⅳ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、日本政治思想史の歩みを、戦前・戦後を通じて活躍した丸山真男の政治思想を中心にたどりながら、西洋政治思想の摂取がどのように行われたのか、そして日本が自由主義と民主主義を自国に根付かせる過程で問題となったことは何であったのか、検討していきます。それによって西洋政治思想史と日本政治思想史に関する知識の統合的理解を進めます。

## 教科書 /Textbooks

丸山真男 『戦中と戦後の間』 (みすず書房)  
丸山真男 『忠誠と反逆 - 転形期日本の精神的位相』 (ちくま学芸文庫)  
丸山真男 『丸山真男セレクション』 (杉田敦編、平凡社ライブラリー)

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

適宜指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 戦後日本政治思想の検討課題
- 第2回 丸山真男「政治学における国家の概念」
- 第3回 丸山真男「国民主義の前期的形成」
- 第4回 丸山真男「福沢諭吉の儒教批判」・「福沢に於ける秩序と人間」
- 第5回 丸山真男「超国家主義の論理と心理」
- 第6回 丸山真男「軍国支配者の精神形態」
- 第7回 丸山真男「日本の思想」
- 第8回 丸山真男「忠誠と反逆」
- 第9回 丸山真男「歴史意識の古層」
- 第10回 丸山批判と丸山後の思想状況
- 第11回 自由主義と正義をめぐる思索I 【共生の作法】
- 第12回 自由主義と正義をめぐる思索II 【公共性】
- 第13回 民主主義をめぐる思索I 【日本の討議デモクラシー論】
- 第14回 民主主義をめぐる思索II 【日本のラディカルデモクラシー論】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告、授業への取り組み...100%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず文献を読んでおくこと。また授業後には授業中の議論のポイントをまとめておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

# 政治思想史IV 【夜】

キーワード /Keywords

# 途上国開発論Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

## 【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、途上国の開発分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

途上国開発論Ⅲ

※ 法律学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

20世紀には急速な人口増加や科学技術の進展により、人類は大量のエネルギーを消費、同時に環境破壊を繰り返した。1980年代後半から環境に配慮し、持続可能な社会をつくろうと世界的な動きが出てきた。その教育的な動きとして2005年からのESD(持続可能な開発のための教育)がある。参加型手法を用いて、全体的なアプローチを行い、すべての年齢、階層の人々を対象に行われる。実際の生活に応用することで、生活の質が向上する。大学ではあまり積極的に教えられることのない、学習する機会のないESDを、実践活動を交えながら、学習したい。このESDは、国連大学やユネスコを通して途上国でも広がりを見せている。したがって、途上国で取り組まれているESDとはどのようなものかも学習したい。その際、北九州ESD協議会と連携し、ESDの実践的な学習を行っていきたい。その際、ファシリテーションスキル取得も同時に行う。以上によって、問題発見・理解力、問題解決能力や実践力が身に付き、自らの生活の質も変えることが可能となる。

## 教科書 /Textbooks

\* 必要に応じて配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- \* 生方秀紀他編『ESDをつくる～地域でひらく未来への教育』ミネルヴァ書房、2010年、2800円
- \* 開発教育協会内ESD開発教育カリキュラム研究会編『開発教育で実践するESDカリキュラム～地域を掘り下げ、世界とつながる学びのデザイン』学文社、2010年、2400円
- \* 中山修一他編『持続可能な社会と地理教育実践』古今書院、2011年、5600円
- \* 森良『力を引き出すもりもりファシリテーション』まつやま書房、2007年、1500円
- \* Education in Human Values~teachers guide, Institute of Satya Sai Education, Fiji, 2006

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ESDと生活についての議論
- 第2回 『ESDをつくる』の輪読と議論(全体概念の理解)
- 第3回 『ESDをつくる』の輪読と議論(地域の教育力=「ローカル知」)
- 第4回 『ESDをつくる』の輪読と議論(サブサハラとアラスカの持続可能な開発)
- 第5回 『持続可能な社会と地理教育実践』の輪読と議論(小学校・中学校用ESD)
- 第6回 『持続可能な社会と地理教育実践』の輪読と議論(高校・大学用ESD)
- 第7回 『持続可能な社会と地理教育実践』の輪読と議論(インドネシアのパーム油を教材にしたを対象にしたESD)
- 第8回 『持続可能な社会と地理教育実践』の輪読と議論(先進国のESD)
- 第9回 『開発教育で実践するESDカリキュラム～地域を掘り下げ、世界とつながる学びのデザイン』の輪読と議論(地域の探求)
- 第10回 『開発教育で実践するESDカリキュラム～地域を掘り下げ、世界とつながる学びのデザイン』の輪読と議論(世界へのつなげ方)
- 第11回 途上国と先進国のESDの事例を知った上での議論
- 第12回 『力を引き出すもりもりファシリテーション』の輪読と議論(ファシリテーション手法の理解)
- 第13回 「北九州まなびとESDステーション」事業の全体把握
- 第14回 北九州ESD協議会と「北九州まなびとESDステーション」での各プロジェクトの理解とワークショップへの参加
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...50% 小課題の提出...20% まとめ能力とプレゼン能力...30%

## 途上国開発論III 【夜】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は、指定された文献の箇所を読み、意見を考えてくること、事後学習は、授業で指摘されたことを整理しておくこと。

### 履修上の注意 /Remarks

事前に文献は読了のこと、新聞記事を読んでおくこと、英語にもある程度精通することが重要である。場合によっては水俣への研修旅行にも参加可能。まなびとESDステーションの三宅ゼミが関連しているプロジェクトの中で本講義で学習したことを実践に移してもらいたい。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課外実践活動も行うので、積極性を身に着け、コミュニケーション能力もある程度保持しておいてほしい。

### キーワード /Keywords

ESD ( 持続可能な開発のための教育 )    途上国の環境・社会破壊    北九州ESD協議会    開発教育

# 途上国開発論Ⅳ【夜】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

## 【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、途上国の開発分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

途上国開発論Ⅳ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

以前に比べ、開発途上国の経済成長は著しい。しかし、同時に、その過程で日本が経験したような水俣病をはじめとする公害や環境破壊が目立って現れてきている。特に、力を持たない貧困層にその影響が及び、被害が出ているのは確かである。本授業では、途上国の開発の影の部分の環境破壊、それによる社会への影響、そしてその対策の模索を受講生との議論を交えながら学習していく予定である。なかでも、後半には、もう少し焦点を絞り、指導教員の専門領域である廃棄物管理の社会配慮といった側面を取り上げたい。それらの学習を通じて、知識の吸収、理解力、英語の読解力や論理的思考力などの向上が図られると考えられる。

## 教科書 /Textbooks

○三宅博之『開発途上国の都市環境～バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年  
必要に応じてその都度配布

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

Robert B. Potter et al., Geographies of Development—an introduction to development studies 3rd ed., Pearson Education Ltd, Harlow, 2008  
恩田守雄『開発社会学～理論と実践』ミネルヴァ書房、2001年  
ユネスコ発行のESDに関する数々の英文資料  
インドの科学・環境センター発表のGabar Times

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開発途上国における諸問題の理解
- 第2回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 1 (開発に関する理論と戦略の歴史)
- 第3回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 2 (グローバル化の中での開発)
- 第4回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 3 (開発過程下の人々)
- 第5回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 4 (都市における開発)
- 第6回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 5 (農村における開発)
- 第7回 Geographies of Development 3rd edの輪読と議論 6 (人の移動と資本の流れ)
- 第8回 『開発社会学～理論と実践』の輪読と議論 1 (社会開発のための社会分析)
- 第9回 『開発社会学～理論と実践』の輪読と議論 2 (国際協力としての実践的手法)
- 第10回 『開発社会学～理論と実践』の輪読と議論 3 (参加型社会開発の実践)
- 第11回 廃棄物管理の社会配慮に関する説明と議論 1 (社会配慮の全体概念の理解)
- 第12回 廃棄物管理の社会配慮に関する説明と議論 2 (廃棄物をめぐる環境教育)
- 第13回 廃棄物管理の社会配慮に関する説明と議論 3 (清掃人を取り巻く環境)
- 第14回 廃棄物管理の社会配慮に関する説明と議論 4 (ウェイスト・ピッカーと児童労働)
- 第15回 まとめ

必要に応じてユネスコやインド科学・環境センターの英文資料を読む

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...40% 小課題の提出...40% 口頭試験...20%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は指定文献を読み、自らの意見をまとめておくこと、事後学習は、口頭試験の準備のために授業で習ったことを整理しておくこと。

## 途上国開発論Ⅳ【夜】

### 履修上の注意 /Remarks

文献によってはある程度の英語の読解力が必要とされるので、日常的に英語力を磨いておくこと。また、日ごろから自らの生活を顧みておくこと。途上国との関係がそこに現れている。  
途上国に関心のある者には特に受講を勧めたい。学部生とともに水俣などのスタディツアーに出かけることもある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の履修後は、途上国現地に出かけ、自らの眼で観察調査をしてきてもらいたい。学部学生と一緒にスタディツアーに出かけることもあるので、一緒に参加することを勧める。

### キーワード /Keywords

開発途上国 水俣病 環境・社会破壊 廃棄物管理 社会配慮



# 産業政策論Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

## 【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、都市の産業政策の知識を修得する。
技能	○	都市の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

産業政策論Ⅲ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

人口減少社会、加速化するグローバル競争、地域格差の拡大が進む中、地域経済を支えるこれまでの地域産業政策は転換を余儀なくされている。地域の持続的な発展に向けて、地域のポテンシャルを踏まえた適切な産業政策の展開が求められる一方、地域社会との共創性も看過できない。

産業政策論Ⅲ、Ⅳでは、地域経済が直面する現状と課題を概観した後、地域産業政策の変遷に触れながら、地域経済の活性化とはどのようなことなのか、企業・地域の成長戦略における場所の意味は何か、地域産業政策の実際の展開などの論点について、具体的な事例を交えながら検討していく。

受講者の主体的な参加を促すため、本講義はゼミ形式で行う。

## 教科書 /Textbooks

- 中村良平[2014]『まちづくり構造改革』日本加除出版
- 川端基夫[2008]『立地ウォーズ』新評論

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 山崎朗他[2016]『地域政策』中央経済社  
講義の中で適宜紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 産業構造の変化と地域産業政策の枠組み
4. 地域経済政策の課題① - ものづくり産業の衰退
5. 地域経済政策の課題② - 地方創生を担う中小企業
6. 地域経済政策の課題③ - コミュニティベース
7. 地域産業政策の変遷 - 地域開発と内発的発展
8. 地域経済の活性化① - 持続可能な地域の条件
9. 地域経済の活性化② - 基盤産業と非基盤産業
10. 地域経済の活性化③ - 地域内経済循環事例
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値、立地戦略の方向性
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 地域産業戦略事例 - 商店街活性化
14. 地域産業戦略事例 - 観光まちづくり
15. まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

出席点50%、課題レポート50%をベースに、授業への参加姿勢により加点する。

## 産業政策論Ⅲ【夜】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備すること。

### 履修上の注意 /Remarks

授業計画は進捗状況に応じて、変更する場合がある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、深刻化する地域経済を支える今後の産業政策のあり方について、受講生と議論をしたいと考えている。幅の広い視点や柔軟な発想を持った受講生を歓迎する。

### キーワード /Keywords

# 産業政策論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

### 【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、都市の産業政策の知識を修得する。
技能	○	都市の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

産業政策論Ⅳ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

### 授業の概要 /Course Description

産業政策論Ⅳでは、社会的課題の解決に向けて新たな主体として台頭した社会的企業や、地域づくり活動と連動しながら展開する地域ビジネスに焦点をあてる。とりわけ、後者は人口減少による地方消滅の危機が迫る中、地方創生、地域活性化との関連で注目を集めている。本講義では、かかる新しい経済主体や活動が、都市マネジメントなどで注目を集めるパートナーシップ政策と巧みに連動しながら展開していることに注目し、地域資源を活用した事例分析を中心としながら、その本質と政策展開に関する議論を行いたい。受講者の主体的な参加を促すため、本講義はゼミ形式で行う。

### 教科書 /Textbooks

・ 宮副健司[2014]『地域活性化マーケティング』同友館

### 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

・ 風見正三[2009]『コミュニティビジネス入門』学芸出版社  
○藤井敦史他編[2013]『聞く社会的企業』勁草書房  
講義の中で適宜紹介する。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要 (社会的企業)
2. 地域課題をビジネスで解決する - 社会的企業の台頭
3. 社会的企業の類型と事例
4. 社会的企業とパートナーシップ政策(1) - ガバナンスとパートナーシップ
5. 社会的企業とパートナーシップ政策(2) - 市民協働事業の事例
6. 社会的企業を支える制度(1) - 社会的事業の経営課題
7. 社会的企業を支える制度(2) - 資金調達とスキル・ノウハウの提供
8. 社会的企業の事例研究 - 院生発表 (地域ビジネス)
9. 地域ビジネスの特性と事例
10. 地域資源の戦略的活用
11. 地域ビジネスのマーケティング
12. 地域ビジネスのマネジメントと担い手
13. 地域ビジネスの展開事例 - 地域ブランド戦略
14. 地域ビジネスの展開事例 - 院生発表
15. まとめ

### 成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート50%、日常の授業への取り組み50%

## 産業政策論Ⅳ 【夜】

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業外学習として、演習内容に沿って自主的な事前事後学習を行うほか、適宜、課題を与えるので、決められた期日までに準備すること。

### 履修上の注意 /Remarks

無断欠席、理由のない遅刻は減点する。  
授業計画は進捗状況に応じて、変更する場合がある。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

担当教員は、持続可能な地域社会の再構築に向けて、社会的企業と地域資源を活用した地域ビジネスの役割を特に重視している。  
多彩な事例をもとに、新しい経済主体と活動について読み解いていくので、多元的な主体が参画する地域づくりに関心を持ち、積極的な学習意欲のある学生を歓迎する。

### キーワード /Keywords

# 公共政策論Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、公共政策分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

公共政策論Ⅲ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を研究するうえで必要となる基本的な理論や分析方法を身につけることにある。講義の詳細の内容については、本講義の履修者との議論で決めたいと考えている。例えば、公共政策研究の方法論を研究するために『公共政策学の基礎』を多角的視点から輪読したり、「まちづくり」を中心とした問題(たとえば、中心市街地の空洞化問題、限界集落・限界コミュニティの問題等)あるいは「ガバナンス」に関連する問題を取り上げ考察したいと考えている。

## 教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉『公共政策学の基礎』(有斐閣、2011年)。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにした。以下は、あくまで授業計画の例にすぎない。

- 第1回 導入
- 第2回 公共政策とは何か
- 第3回 公共政策学の系譜
- 第4回 公共政策のアクター
- 第5回 アジェンダ設定理論
- 第6回 政策問題の構造化
- 第7回 公共政策の手段
- 第8回 公共政策規範
- 第9回 公共政策の決定と諸理論
- 第10回 公共政策の実施
- 第11回 公共政策の評価
- 第12回 政策決定とアイデア
- 第13回 公共政策とガバナンス
- 第14回 公共政策とソーシャルキャピタル
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(プレゼンテーションを含む) ... 50% レポート ... 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基本書の輪読では、担当箇所について必ずレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。

# 公共政策論III 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

# 公共政策論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

### 【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、公共政策分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

公共政策論Ⅳ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

### 授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、現代日本の地方自治体における公共政策を多角的に分析・考察することを通じて、公共政策の基本的研究方法を身につけることにある。

本講義履修者との議論によって講義の詳細は決定したいと考えているが、公共政策の方法論に関する問題が、都市部の「限界コミュニティ」の問題や単身世帯急増など最先端の問題を取り上げ議論できればと考えている。

### 教科書 /Textbooks

テキストは用いない。本講義履修者の関心や人数などによって、その都度、参考文献等は指示する予定である。

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

芳賀祥泰編著『福祉の学校-安全・安心・快適な福祉国家を目指して-』(エルダーサービス、2010年)。

藤森克彦『単身世帯急増社会の衝撃』(日本経済新聞社、2010年)。

伊藤修一郎『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』(東京大学出版会、2011年)。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

基本的には、開講後、本講義の履修者との相談によって、テーマやスケジュール等は決定することにしたい。以下は、あくまで授業計画の例にすぎない。

- 第1回 導入
- 第2回 現代日本の公共政策とそのポイント(1)-少子高齢社会
- 第3回 現代日本の公共政策とそのポイント(2)-人口減少社会の到来
- 第4回 現代日本の公共政策とそのポイント(3)-巨額の財政赤字
- 第5回 現代日本の公共政策とそのポイント(4)-単身世帯の急増
- 第6回 現代日本の公共政策とそのポイント(5)-格差社会
- 第7回 限界集落とは何か
- 第8回 限界集落と事例研究
- 第9回 限界集落の再生
- 第10回 都市の限界コミュニティ
- 第11回 北九州市の局地的高齢化と限界コミュニティ
- 第12回 限界コミュニティの再生
- 第13回 フードデザート、買い物難民(弱者)とは?
- 第14回 買い物難民(弱者)の対策
- 第15回 まとめ

### 成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(プレゼンテーション等も含む)... 50 % レポート... 50 %

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基本書の輪読等では、担当箇所について必ずレジユメを作成し、プレゼンテーションの準備をして授業に参加すること。

# 公共政策論IV 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords



# 福祉政策論Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、福祉政策分野の知識を修得する。
技能	○	社会保障の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

福祉政策論Ⅲ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本の年金、医療、生活保護などをめぐる政策的論点を実践的に検討します。年金、医療、生活保護に関する図書・学術論文を講読し、受講生による報告と議論を行います。所得、世代や地域、など様々な立場の違いを理解し、解決策を考えます。議論の争点について、受講生が自らの考えを整理し、独自の見解を確立できるようになることを目標にします。

## 教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ベーシック・インカムとは
- 第2回 ベーシック・インカム導入の是非
- 第3回 福祉国家の三類型
- 第4回 福祉国家としての日本の特徴
- 第5回 基礎年金の税方式化の是非
- 第6回 公的年金の一元化の是非
- 第7回 第3号被保険者問題について
- 第8回 短時間労働者と年金
- 第9回 診療報酬について
- 第10回 混合診療導入の是非
- 第11回 高齢者医療制度について
- 第12回 後期高齢者医療制度の是非
- 第13回 生活保護について
- 第14回 生活保護の給付水準をめぐる議論
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100% 欠席1回につき5点程度減点する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

# 福祉政策論III 【夜】

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

## キーワード /Keywords

特になし。

# 福祉政策論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、福祉政策分野の知識を修得する。
技能	○	社会保障の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

福祉政策論Ⅳ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

日本の介護、保育、障害者福祉などをめぐる政策的論点を実践的に検討します。介護、保育、障害者福祉に関する図書・学術論文を講読し、受講生による報告と議論を行います。所得、世代や地域、など様々な立場の違いを理解し、解決策を考えます。議論の争点について、受講生が自らの考えを整理し、独自の見解を確立できるようになることを目標にします。

## 教科書 /Textbooks

教科書は指定しません。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

授業中に指示します。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 社会福祉事業について
- 第2回 社会福祉サービスの事業主体
- 第3回 社会福祉法人の公益性
- 第4回 介護サービスと民間事業者
- 第5回 介護サービスへの民間事業者参入の是非
- 第6回 介護保険料の地域間格差の是非
- 第7回 介護の社会化は達成されたのか？
- 第8回 公立保育所民営化の是非
- 第9回 幼保一体化について
- 第10回 男女共同参画と少子化対策
- 第11回 少子化対策は無意味？
- 第12回 障害の概念について
- 第13回 障害者の一般就労について
- 第14回 社会的雇用について
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容・・・100% 欠席1回につき5点程度減点する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

社会福祉サービスについて関心をもっておいてください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・ 資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

# 福祉政策論Ⅳ【夜】

キーワード /Keywords

特になし。

# 環境政策論III 【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

### 【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、環境政策の知識を修得する。
技能	○	地域の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

環境政策論III

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

### 授業の概要 /Course Description

「市場失敗」や社会問題の増加に伴い、政府の役割やその機能がよく議論されている。実際に、政府の組織、予算規模、政策対象も大きく拡大している。しかし、政府失敗や政策の失敗の事例も多く、「政府の失敗」「政策の失敗」に関する議論も多くなっている。

政府機能・役割・政府失敗・政策失敗に関する知識の取得。

- ①政府機能・役割に関する論文や著作を読んで議論する。
- ②政府失敗・政策失敗について議論する。

専門知識の活用能力を高める。

- ①政府失敗・政策失敗に関する知識を活用する。
- ②レポートや論文などで応用し、分析してみる。

### 教科書 /Textbooks

特に、指定しないが、「政府の失敗」「政策の失敗」に関する著作、論文を読む。

### 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 林正義、小川光、別所俊一郎(2010)、公共経済学、有斐閣アルマ
- 建林正彦、曾我謙悟、待鳥聡史(2008)、比較政治制度論、有斐閣アルマ
- 惣宇利紀男(2003)、公共部門の経済学-政府の失敗、阿吽社

その他、制度論、The Principal-Agent Model やGame Theory 関連の論文や著作。

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 関連書籍や議論の紹介。
  - 第2回 公共経済学I【市場失敗】
  - 第3回 公共経済学II【Free-rider、Public Goods】
  - 第4回 公共経済学III【公共経済と政策】
  - 第5回 公共経済学IV【理論】
  - 第6回 公共部門の経済学【政府の失敗に関する理解】
  - 第7回 公共部門の経済学【政策失敗：官僚、予算】
  - 第8回 公共部門の経済学【比較事例】
  - 第9回 比較政治制度論【制度論】
  - 第10回 比較政治制度論【比較分析】
  - 第11回 比較政治制度論【比較一環境事例】
  - 第12回 Game Theory 関連論文の議論。
  - 第13回 Game Theory やThe Principal-Agent Model 関連論文の議論。
  - 第14回 The Principal-Agent Model やガバナンス関連論文の議論。
  - 第15回 まとめ。
- その他、論文のコピーを配布する。

## 環境政策論III 【夜】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

レポートの報告 ( 60% ) 議論 ( 40% ) 。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

### 履修上の注意 /Remarks

論文を読んで、著者の問題意識、論点について考えること。  
参考文献の中で関連文献を読むこと。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

政治家、官僚、市民、政府機能、政府役割、政府失敗、政策失敗、

# 環境政策論Ⅳ 【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、環境政策の知識を修得する。
技能	○	地域の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

環境政策論Ⅳ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

環境問題：地球規模の環境問題、気候変動と農業・災害・都市の生活基盤との関係、福島事故と災害の問題など。  
環境政策：温暖化対策、エネルギー政策、リスク管理政策などについての理解と専門知識の取得。

以上の内容、他のテーマに関する内容を研究する。

- ①環境問題や環境政策を理解するため、論文や著作を読んで議論し、理解力を高める。
- ②環境政策の形成過程を分析する理論的視座について勉強し、その議論を深める。

専門知識の活用能力を高める。

- ①環境政策の形成に関する専門的知識を応用する。
- ②環境政策の事例を取り上げ、分析してみる。

## 教科書 /Textbooks

特に、指定しないが、環境問題や環境政策に関する論文、著作を読んで議論する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

- 『環境経済学』(宮本憲一著、岩波書店、¥3,990)
- 『環境社会学』(船橋晴俊著 成文堂 ¥2,700)
- 『再生可能エネルギーの政治経済学』(大島堅一著 東洋経済新報社 ¥3,990)
- 『環境問題の社会史』(飯島伸子著 有斐閣 ¥2,310)
- 『脱原子力の運動と政治-日本のエネルギー政策の転換は可能か』(本田 宏著 北海道大学図書刊行会 ¥6,300)

その他 英文、リスク管理関連の論文のコピーを配布する。また、視聴覚資料(youtube、DVD)を参考する。

# 環境政策論Ⅳ 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容と本の説明、紹介。
- 第2回 環境問題の社会史【人間生活と環境】
- 第3回 環境問題の社会史【環境問題と社会史】
- 第4回 環境経済学【環境問題と経済学】
- 第5回 環境経済学【政策手段】
- 第6回 環境経済学【自律協定と排出取引権】
- 第7回 【温暖化問題】
- 第8回 【エネルギーイシューと論点】
- 第9回 【原子力と再生エネルギー】
- 第10回 【再生可能エネルギーの政治学】
- 第11回 【再生可能エネルギーの経済学】
- 第12回 【脱原子力の運動と政治】
- 第13回 【リスク管理政策】
- 第14回 アメリカでの研究、考察
- 第15回 海外での研究、考察、授業の総括

その他、論文や資料を読み、議論する。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

議論と報告(70%)、レポート(30%)で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

政策過程論、環境政策を受講すること。  
論文を読んで、著者の問題意識、論点について考えること。  
参考文献を参照し、読むこと。

論文や記事などを読んで、論者の問題意識、論点について考えること。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「環境」というのは、単なる自然環境ではなく、人間生活を可能とするミナモトであり、人間と社会経済との関係をつなぐ媒介でもあります。環境は、人々の考え方、文化、そして制度によって異なる現象であります。「環境」の在り方を見つめることは、「社会構成原理」や「人間社会の在り方」を見つめることにもなります。このような議論の一つが「持続可能な」社会でしょう。「環境」を考えることは、「今」・「ここ」という我々の生活に限定されない次世代に渡るコミュニケーションでもあります。

## キーワード /Keywords

人間生活と社会経済、制度、関係、アクター、利益、費用と便益、政策過程



# 政策評価論III 【夜】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次  
単位 /Credits 2単位  
学期 /Semester 1学期  
授業形態 /Class Format 講義  
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、評価論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

政策評価論III

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献(日本語および英語・主に理論)を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行う。受講生は2回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表する(パワーポイント等を用いてもよい)。報告者は疑問点や論点を提示し、受講生の議論をリードする役割も担う。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがある。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで授業に参加、議論に貢献することを強く求める。なお、受講生の研究報告を学期中に少なくとも2回は行ってもらう予定である。

## 教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- C・H・ワイス[佐々木亮監修](2014)『入門評価学』日本評論社
- 古川俊一・北大路信郷(2004)『新版公的部門評価の理論と実際』日本加除出版
- 小塩隆士(2012)『効率と公平を問う』日本評論社
- ステイブン P.ロビンズ[高木晴夫訳](2009)『新版組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

ほか、受講生の研究分野に関連する文献等を含め、適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講生の研究報告【研究テーマの確認】
- 3回 文献輪読【理論・実証の整理】
- 4回 文献輪読【分析手法の検討】
- 5回 文献輪読【評価論の整理・検討】
- 6回 文献輪読【評価方法の整理・検討】
- 7回 文献輪読【行政組織と行政評価】
- 8回 受講生の研究報告【リサーチ・クエスト】【仮説】
- 9回 文献輪読【行政評価システム導入状況の確認】
- 10回 文献輪読【欧米諸国における行政評価の先進事例研究】
- 11回 文献輪読【日本の地方自治体における行政評価の先進事例研究】
- 12回 文献輪読【日本の中央省庁における行政評価の先進事例研究】
- 13回 文献輪読【現行評価システムに対する批判的考察】
- 14回 文献輪読【現行評価システムの改善策の検討】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、議論への参加・貢献50%  
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献報告および研究報告は、学年を問わず最低2度は行ってもらう予定ですので、その準備と発表後のコメントの整理がそれぞれ事前・事後の学習となります。

# 政策評価論III 【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたいうでの議論ができればと思っています。

## キーワード /Keywords

# 政策評価論Ⅳ 【夜】

担当者名 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、評価論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

政策評価論Ⅳ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

本授業では、日本または海外諸国の行政・地方自治に関する文献(日本語および英語・主に実証分析)を輪読し、議論しながら、地方自治体における諸問題について検討し、公的部門の経営・評価、政策、組織等についての研究を行う。受講生は2回以上、報告者として担当となった文献をレジュメにまとめて発表する(パワーポイント等を用いてもよい)。報告者は疑問点や論点を提示し、受講生の議論をリードする役割も担う。内容が悪い場合には、再度報告をしてもらうことがある。また受講生には、報告者であるなしに関わらず、文献を読み込んで授業に参加、議論に貢献することを強く求める。なお、受講生の研究報告を学期中に少なくとも2回は行ってもらう予定である。

## 教科書 /Textbooks

受講生と相談のうえ決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- C・H・ワイス[佐々木亮監修](2014)『入門評価学』日本評論社
- 古川俊一・北大路信郷(2004)『新版公的部門評価の理論と実際』日本加除出版
- 松田憲忠・竹田憲史(2012)『社会科学のための計量分析入門: データから政策を考える』ミネルヴァ書房
- 小塩隆士(2012)『効率と公平を問う』日本評論社
- 赤井伸郎(2006)『行政組織とガバナンスの経済学: 官民分担と統治システムを考える』有斐閣

ほか受講生の研究分野に関連する文献等を含め、適宜、紹介する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 受講生の研究報告【研究テーマの確認】【リサーチ・クエスト】【仮説】
- 3回 文献輪読【理論・実証の整理】
- 4回 文献輪読【分析手法の検討】
- 5回 文献輪読【評価論の整理・検討】
- 6回 文献輪読【評価方法の整理・検討】
- 7回 文献輪読【評価における統計的分析】
- 8回 受講生の研究報告【先行研究との関連】【分析の進捗】
- 9回 文献輪読【公的部門における評価基準・評価手法の検討】
- 10回 文献輪読【日本の地方自治体を中心とした行政評価の先進事例研究】
- 11回 文献輪読【外部評価制度の事例研究】
- 12回 文献輪読【外部評価制度の問題点】
- 13回 文献輪読【現行評価システムに対する批判的考察】
- 14回 文献輪読【現行評価システムの改善策の検討】
- 15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、議論への参加・貢献50%  
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

# 政策評価論Ⅳ【夜】

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献報告および研究報告は、学年を問わず最低2度は行ってもらう予定ですので、その準備と発表後のコメントの整理がそれぞれ事前・事後の学習となります。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたうえでの議論ができればと思っています。

## キーワード /Keywords

# 比較政治経済学Ⅲ【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

## 【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、比較政治経済学分野の知識を修得する。
技能	○	社会・経済の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

比較政治経済学Ⅲ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを検証する。分析対象の政策分野は主に次: 経済、福祉、教育、労働、規制、貿易など。また、違う政策が経済パフォーマンスや人々の福祉にどのような肯定的・否定的影響を与えるかを検証し、いかなる政策のセットが当該の結果の分野において望ましいかを考察する。さらに、これらの政策の相違はいかなる要因によって産まれるのかを考察する(諸国の政治経済体制の種類、経済状況、価値観、政党間競争、労使関係など)。また、資本・貿易や経済の国際化の制約が、諸国の政策にいかなる影響を与えるかを検証する。

\*比較政治経済学「I・II」と「III・IV」の違いは、「III・IV」では「I・II」で学んだ知識を基礎にしてそれを発展させるとともに上記問題についてより深く掘り下げて分析する。

\*比較政治経済学IVとの違いは、IIIは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してIVはIIIの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。

## 教科書 /Textbooks

Anton Hemerijck, Changing Welfare States (Oxford: Oxford University Press, 2013).

(なぜ英語のテキストを使うのかなど私のクラスについては、[http://www.geocities.jp/sakamoto\\_pol/basicideas.htm](http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htm)を参照)

## 参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

後日指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにしたプレゼンテーション・検証・質疑応答を行い、学生と教員が互いに理解を深める。すべての学生は毎週、指定されたテキストを事前に読み終えて授業に臨む。

1. イントロ; 2. 問題定義: 経済成長、平等、福祉国家; 3. 福祉国家の進化・適応; 4. 福祉国家をめぐる政治経済; 5. 社会福祉政策が直面する21世紀の問題; 6. 福祉国家の変化・改革; 7. 福祉政策の調整; 8. 福祉国家の効果・影響—経済成長、生産性の成長; 9. 福祉国家の効果・影響—雇用、失業、長期失業; 10. 福祉国家の効果・影響—所得分配、格差、貧困; 11. 福祉国家の自律的持続性; 12. 投資的福祉政策—教育、労働訓練; 13. 投資的福祉政策—家族支援、再分配; 14. 小括; 15. まとめ。

## 成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言参加が40%、(2)研究論文あるいは期末総合テストが60%(どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に決める。研究論文の場合、研究の内容は、テキストや授業で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するもの。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと:(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストを行う。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記を参照せよ

# 比較政治経済学Ⅲ【夜】

## 履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

## キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

# 比較政治経済学Ⅳ【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、比較政治経済学分野の知識を修得する。
技能	○	社会・経済の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

比較政治経済学Ⅳ

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

このクラスは先進諸国が様々な政策分野でいかなる政策を実行し、政策がいかなる結果を創出するかを、実証データやケースに重点を置いて検証する。(比較政治経済学Ⅲとの違いは、Ⅲは理論から始め、理論がどれだけ実証的データと合致するかという点からデータを検証する。これに対してⅣはⅢの応用編で、更なる理論的検討と実証データやケースに重点を置く。)政策問題にはたとえば下に記すようなものがあるが、各学生が研究関心がある問題を選び、その問題解消のため有効・無効な政策のデータを検証してもらい、クラス全体で政策の有効性、いかなる政策がいかなる問題に応用されるべきかを検証する。(政策問題の例:失業、貧困、教育、経済格差、男女格差、人口減少、低出生率、経済停滞、医療政策、福祉政策、財政政策)

\*比較政治経済学「Ⅰ・Ⅱ」と「Ⅲ・Ⅳ」の違いは、「Ⅲ・Ⅳ」では「Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識を基礎にしてそれを発展させるとともに上記問題についてより深く掘り下げて分析する。

## 教科書 /Textbooks

各学生が選ぶ政策問題にかかわる文献を随時学期中に選んで指定する。ただ比較政治経済学Ⅲで使用されるテキストは広い範囲の問題を扱い、役に立つので、Ⅳを履修する前か履修の学期中に読むことが望ましい。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References ( Available in the library: ○ )

後日指示。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生の調査・研究・考察の結果をもとに、プレゼンテーションや質疑応答、討論を通して、政策問題を検証する。毎週具体的なトピックは、第1・2週の授業の中で相談の上決める。

1. 導入
2. 問題設定
3. 運営計画策定
4. 報告Ⅰ [First Topic]
5. 考察、批評、提言Ⅰ [First Topic]
6. 報告Ⅱ [Second Topic]
7. 考察、批評、提言Ⅱ [Second Topic]
8. 報告Ⅲ [Third Topic]
9. 考察、批評、提言Ⅲ [Third Topic]
10. 報告Ⅳ [Fourth Topic]
11. 考察、批評、提言Ⅳ [Fourth Topic]
12. 中間報告
13. 考察、批評、提言
14. 再分析、再考察、最終作業Ⅰ
15. 再分析、再考察、最終作業Ⅱ [Continued from Week 14]

\*Topics vary, depending on the interests of students.

## 比較政治経済学Ⅳ【夜】

### 成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)授業参加における積極性や質が40%、(2)調査・研究の結果をまとめた論文が60%。研究には学期を通して従事する。研究の内容は、各学生が選ぶ政策問題を分析・考察するもの。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。また、学期半ばに研究の計画書を提出する。研究の課題、研究方法・計画の概要を記したアウトラインを提出する。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記を参照せよ

### 履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前に、教科書の指定箇所を読むこと。この講読で得た知識をベースに授業を進める。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

### キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団



# 自治体政策論II 【夜】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が修了時に身に付ける能力)」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース・専修コース(政策科学系)】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	◎	研究者(または高度専門職業人)として活躍するために必要な、自治体政策論の知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題(または特定の政策的課題)について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案・評価(または実践的に提言)することができる。
態度		

※ ◎:強く関連 ○:関連 △:やや関連

自治体政策論II

※ 法学系の学生は、学位授与方針における能力が異なりますので、カリキュラムマップで確認してください。

## 授業の概要 /Course Description

今年度の「自治体政策論II」は、「環境と福祉の政策学」というテーマで行います。血管に動脈と静脈があり、その循環によって人間の身体が成り立っているのであれば、自治体や国家という政体(政治システム)にも、動脈政策と静脈政策があると言えるのではないのでしょうか。この授業では、環境政策と福祉政策という、二つの静脈政策を取り上げながら、自治体政策の中でのそれらの位置づけと意義について検討したいと考えています。最初は、市民による政策構想についての授業を行い、次に、環境政策と福祉政策との関連について、主として、北九州市の事例にふれながら、議論を進めていきたいと思っています。

## 教科書 /Textbooks

広井良典『「環境と福祉」の統合』(有斐閣、2008年)の内容を中心に議論を展開します。

## 参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

広井良典『生命の政治学』(岩波書店、2003年)(○)  
中道寿一『政策構想の政治学』(福村出版、2014年)

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞 進め方についての説明
- 第2回 市民による政策構想の意義について(1)【夢見る能力、政策価値、政策型思考、政策構想】
- 第3回 市民による政策構想の意義について(2)【政治のデザイン、社会デザイン構想、諸価値の共生】
- 第4回 動脈政策と静脈政策について(1)【静脈政策としての環境政策】
- 第5回 動脈政策と静脈政策について(2)【静脈政策としての福祉政策】
- 第6回 エコロジーと福祉国家
- 第7回 持続可能な福祉国家 / 福祉社会
- 第8回 生命の政治学
- 第9回 定常型社会
- 第10回 「環境と福祉」の統合について(1)【緑地福祉学、環境療法】
- 第11回 「環境と福祉」の統合について(2)【持続地帯、サステイナブル・シティ】
- 第12回 「環境と福祉」の統合に向けての政策(1)【持続可能な福祉社会、ベーシック・インカム】
- 第13回 「環境と福祉」の統合に向けての政策(2)【気候変動・年金税制改革構想】
- 第14回 「環境と福祉」の統合に向けての政策(3)【脱生産主義的福祉国家構想】
- 第15回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的取組(何度か討論を行い、発表をしてもらいます) 20%  
発表に伴うレポート作成(2回) 30%  
最終のまとめのレポート 50%  
以上を総合的に評価します。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表のためのレジュメの作成  
発表後の完成レジュメの作成

## 自治体政策論II 【夜】

### 履修上の注意 /Remarks

できるだけ受講生の修士論文のテーマと関連づけながら議論を進めたいので、講義中でも積極的に意見交換をしたいと考えています。

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に勉強しましょう。

### キーワード /Keywords

静脈政策、環境と福祉

# 行政学特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 (ペア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、行政学分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、行政学分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

行政学特別研究II

## 授業の概要 /Course Description

行政学に関する修士論文の指導を行うことを目的とする。

## 教科書 /Textbooks

受講生との相談で決定する。

## 参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

受講生との相談で決定する。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス
- 第2回論文に慣れる【論文を集める】
- 第3回論文に慣れる【論文のスケルトンをつかむ】
- 第4回論文に慣れる【論文を読む】
- 第5回論文に慣れる【まとめ】
- 第6回リサーチエッセイを立てる【リサーチエッセイとは】
- 第7回リサーチエッセイを立てる【論文のリサーチエッセイを見定める】
- 第8回リサーチエッセイを立てる【修論のリサーチエッセイを見定める】
- 第9回リサーチエッセイを立てる【まとめ】
- 第10回自分の論文のスケルトンに挑戦する【第1回】
- 第11回論文を読む【外国文献を集める】
- 第12回論文を読む【外国文献を読む】
- 第13回論文を読む【外国文献のスケルトンをつかむ】
- 第14回論文を読む【外国文献のまとめ】
- 第15回先行研究の重要性
- 第16回行政学の先行研究【著書を繙く】
- 第17回行政学の先行研究【論文を繙く】
- 第18回先行研究から文献リストをつくる
- 第19回リサーチ方法についての検討
- 第20回専門文献の読解【文献①】
- 第21回専門文献の読解【文献②】
- 第22回専門文献の読解【文献③】
- 第23回専門文献の読解【文献④】
- 第24回専門文献の読解【文献⑤】
- 第25回自分の修士論文のスケルトンに挑戦する【第2回】
- 第26回修士論文内容の報告
- 第27回報告で不足分の文献読解
- 第28回修士論文内容の報告【第2回】
- 第29回報告で不足分の文献読解【第2回】
- 第30回修士論文に向けての注意

# 行政学特別研究II 【夜】

## 成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な参加・・・50%、毎回の準備・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。 ) 指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

# 途上国開発論特別研究II 【夜】

担当者名 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、途上国の開発・発展分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	途上国の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策的な観点から説得力のある議論を展開し、途上国の開発・発展分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

途上国開発論特別研究II

## 授業の概要 /Course Description

修士課程での学習・研究の集大成として位置づけられる修士論文の作成の指導を行う。領域は開発途上国の開発問題や社会問題、ESDや環境教育・開発教育などである。具体的には、テーマの設定の仕方、調査方法、参加型学習法、章構成の作り方、結論への導き方などの指導を重点的に行う。それにより、課題発見・追求能力、論理構成力や論文作成能力が醸成される。

## 教科書 /Textbooks

- \* 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社新書、2009年、720円
- \* その他 その都度指示・配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- \* 関係する新聞や雑誌記事などをその都度配布する

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 修士論文についての説明	第2回 修士論文のテーマの設定について
第3回 修士論文のねらいの確定	第4回 修士論文の論旨と構成について
第5回 調査方法と資料収集(文献調査)	第6回 調査方法と資料収集(面接調査)
第7回 調査方法と資料収集(標本調査)	第8回 標本調査の分析について
第9回 修士論文の注記について	第10回 修士論文の参考文献について
第11回 修論の進捗状況(はじめに)	第12回 修論の進捗状況(1章前半)
第13回 修論の進捗状況(1章後半)	第14回 修論の進捗状況(2章前半)
第15回 修論の進捗状況(2章後半)	第16回 修論の進捗状況(3章前半)
第17回 修論の進捗状況(3章後半)	第18回 修論の進捗状況(4章前半)
第19回 修論の進捗状況(4章後半)	第20回 修論の進捗状況(5章前半)
第21回 修論の進捗状況(5章後半)	第22回 修論の進捗状況(おわりに)
第23回 全体構成の再確認	第24回 全体構成と論旨の再検討
第25回 修論1章の再発表(修正付き)	第26回 修論2章の再発表(修正付き)
第27回 修論3章の再発表(修正付き)	第28回 修論4章の再発表(修正付き)
第29回 修論4・5章の再発表	第30回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加への態度...50% 調査方法や執筆内容の正確さ・緻密さなど...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

修士論文、特定課題論文を仕上げるために本授業が置かれている。事前学習は論文の書き方に関する資料を入手・熟読し、日ごろから新聞記事や文献などで必要な情報を得ておくこと、事後学習は、授業で指摘されたことを再度整理しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

修士課程の集大成であるので、議論が的確にできるように準備を怠らないこと。参加型調査手法を取る学生は、できるだけ足しげく現場に足を運ぶこと。

## 途上国開発論特別研究II 【夜】

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文献ばかりを扱うだけでなく、現場を重視する政策学を志向するために、参加型調査手法をできるだけ採り入れてほしい。

### キーワード /Keywords

修士論文    テーマ設定    論理構成力    参加型調査手法

# 公共政策論特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バア) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、公共政策分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	研究者として地域社会の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策的な観点から説得力のある議論を展開し、公共政策について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

公共政策論特別研究II

授業の概要 /Course Description

公共政策もしくは地域公共政策の論文指導を行う。具体的には、テーマの選定からリサーチ・クエスションのたてかた、及び仮説のたてかた、さらに量的分析・質的分析の説明から論文執筆に際して注意すべき点、引用注の付け方まで、順を追って修士論文の作成の仕方について指導していく予定である。

教科書 /Textbooks

テキストは、受講生と相談のうえ決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じて、適宜紹介します。

# 公共政策論特別研究II 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講生の研究の進捗状況にあわせてその都度決定していくが、とりあえずは以下のようなスケジュールで進める予定です。

- 第1回 導入
- 第2回 修士論文作成に際しての心得
- 第3回 テーマの選定について
- 第4回 リサーチクエスションをたてる
- 第5回 仮説をたてる
- 第6回 文献調査について(1)-図書館等の使い方
- 第7回 文献調査について(2)-邦語文献の収集
- 第8回 文献調査について(3)-外国語文献の収集
- 第9回 第一次文献リストの作成
- 第10回 量的調査
- 第11回 質的調査
- 第12回 テーマの(仮)決定
- 第13回 論文の構成について
- 第14回 論文の書き方-引用注の付け方等について
- 第15回 論文の体裁についての指導
- 第16回 テーマ設定、調査方法などに関する論評及び修正
- 第17回 先行研究の検討
- 第18回 先行研究及び関連研究の検討
- 第19回 先行研究と自らの研究の検討(先行研究のどこを乗り越えるのか)
- 第20回 調査方法の検討
- 第21回 調査票等の作成
- 第22回 調査の設計
- 第23回 調査の実施
- 第24回 調査結果の整理
- 第25回 調査結果の報告
- 第26回 中間報告の準備
- 第27回 中間報告
- 第28回 中間報告の論評・修正
- 第29回 最終報告
- 第30回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・ 50%          レポート・・・ 50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示した箇所は必ず前もって検討しておくこと。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords



# 福祉政策論特別研究II 【夜】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、福祉政策分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	社会保障・社会福祉サービスの諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策的な観点から説得力のある議論を展開し、福祉政策分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

福祉政策論特別研究II

授業の概要 /Course Description

社会保障をめぐる政治・行政・政策を研究内容とした修士論文を作成します。日本の社会保障制度の概要や主要論点を理解し、年金、医療、介護、保育、障害者福祉などを扱った先行研究をふまえたうえで、研究課題に取り組みます。

教科書 /Textbooks

受講生の関心にあわせて指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

受講生の関心にあわせて指示します。

# 福祉政策論特別研究II 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 学術論文とは
- 第2回 社会保障制度の理解①社会保険・公的扶助
- 第3回 社会保障制度の理解②社会福祉サービス
- 第4回 図書館の利用について
- 第5回 先行研究の収集
- 第6回 先行研究の検討
- 第7回 先行研究についての報告
- 第8回 先行研究と自らの研究の関連性を考察する
- 第9回 研究課題の設定
- 第10回 研究計画の作成
- 第11回 資料収集方法の検討
- 第12回 調査方法の検討
- 第13回 調査の準備
- 第14回 論文の構成
- 第15回 引用・注釈など書式について
- 第16回 研究課題の報告
- 第17回 調査票等の作成
- 第18回 調査の設計
- 第19回 調査の実施
- 第20回 調査結果の整理
- 第21回 調査結果の報告
- 第22回 研究成果の分析
- 第23回 研究成果のまとめ
- 第24回 中間報告の準備
- 第25回 中間報告の実施
- 第26回 中間報告の修正
- 第27回 最終報告の準備
- 第28回 最終報告の実施
- 第29回 最終報告の修正
- 第30回 意見交換

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業での報告・・・50%                      期末レポート(修士論文中間報告)・・・50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布された資料等をしっかりと読み、報告の準備をしてください。また、授業終了後は、知識や自分の考えを整理してください。

## 履修上の注意 /Remarks

- ・資料や録音した講義内容をインターネット上などで公開することを禁止する。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特になし。

## キーワード /Keywords

特になし。

# 環境政策論特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ) 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、環境政策についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策的な観点から説得力のある議論を展開し、環境政策について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

環境政策論特別研究II

## 授業の概要 /Course Description

社会科学、政策研究の調査方法、データ収集、論理構成と論文の書き方の学習。  
 ①レポートや論文作成に向けた調査方法、データ収集方法について勉強する。  
 ②社会現象から、科学的事実、データ、社会的解釈、概念構成、価値などの論理構成について勉強する。  
 ③論文の書き方と発表方法などについて知ってもらう。

専門知識の活用能力を高める。  
 ①政策事例の選定と理解、知識を深める。  
 ②受講者の研究テーマ、政策事例に関する調査を行い、レポート、論文を作成する。

## 教科書 /Textbooks

『政策リサーチ入門-仮説検証による問題解決の技法』（伊藤 修一郎著 東京大学出版会 ¥2,940）

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

- 『社会科学のリサーチ・デザイン-定性的研究における科学的推論』（G.キング外著 真淵勝監修 勁草書房 ¥3,990）
- 『ケース・スタディの方法』（ロバートK.イン著、近藤公彦訳 千倉書房 ¥3,675）
- 『社会学研究法 リアリティの捉え方』（今田 高俊著 有斐閣アルマ ¥2,415）
- 『社会調査のための統計学 -生きた実例で理解する』（神林博史著 技術評論社 ¥2,079）

その他、受講者の研究テーマに合わせ、政策過程、環境関連の論文や著作を選定し議論する。

# 環境政策論特別研究II 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 紹介、関心テーマなどの共有
- 第2回 政策リサーチ入門【社会現象と科学】
- 第3回 政策リサーチ入門【研究目的と設計】
- 第4回 政策リサーチ入門【データ収集方法】
- 第5回 社会科学のリサーチ・デザイン【定性的研究】
- 第6回 社会科学のリサーチ・デザイン【科学的推論と仮説】
- 第7回 社会科学のリサーチ・デザイン【歴史的方法と事例選定】
- 第8回 社会学研究法 リアリティの捉え方【価値と事実】
- 第9回 社会学研究法 リアリティの捉え方【研究方法の選定と設計】
- 第10回 社会学研究法 リアリティの捉え方【調査方法】
- 第11回 社会調査のための統計学【回帰分析】
- 第12回 社会調査のための統計学【重回帰分析】
- 第13回 社会調査のための統計学【相関分析】
- 第14回 ケース・スタディの方法【単一研究】
- 第15回 ケース・スタディの方法【比較研究】
- 第16回 ケース・スタディの方法【単一方法の事例】
- 第17回 ケース・スタディの方法【比較事例：環境】
- 第18回 ケース・スタディの方法【比較事例：他事例】
- 第19回 関連論文の考察【量的研究の事例】
- 第20回 関連論文の考察【量的研究】
- 第21回 関連論文の考察【質的研究】
- 第22回 関連論文の考察【質的研究の事例】
- 第23回 関連論文の考察【単一研究】
- 第24回 関連論文の考察【単一研究】
- 第25回 関連論文の考察【単一研究】
- 第26回 受講者の研究テーマ関連の論文【問題意識】
- 第27回 受講者の研究テーマ関連の論文【方法論】
- 第28回 受講者の研究テーマ関連の論文【論文構成と論理】
- 第29回 受講者の研究テーマ関連の論文【討論と結論】
- 第30回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

議論と報告(80%)、レポート(20%)で評価する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題を学習支援フォルダに挙げるので、毎回参照し準備すること。

## 履修上の注意 /Remarks

新聞記事や社説を読み、社会現象(事象)、社会的事実、データ(収集方法・調査方法)、仮説、科学的推論、社会的解釈、論理構成などを調べる。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

## キーワード /Keywords

リアリティの捉え方、リサーチ・デザイン、科学的推論、仮説と仮説検証、論理構成と社会的解釈、政策事例。

# 政策評価論特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、評価論についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	地域社会の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、評価論について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

政策評価論特別研究II

授業の概要 /Course Description

日本または海外諸国における公的部門の評価制度に関する事例や研究成果（日本語および英語、理論・実証などジャンル等は特に限定しない）を把握・理解したうえで、修士論文執筆のための土台をつくることを目的とする。

教科書 /Textbooks

受講生と研究テーマにより決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

酒井聡樹(2015)『これから論文を書く若者のために[究極の大改訂版]』共立出版

ほか、受講生の研究テーマにより適宜紹介する。

# 政策評価論特別研究II 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 政策評価・行政評価制度の理解(1)【指標】【手法】【実施根拠】【事例】
- 第3回 政策評価・行政評価制度の理解(2)【外部評価】【政策分析】
- 第4回 研究テーマの検討
- 第5回 研究テーマの選定
- 第6回 リサーチクエストの検討
- 第7回 リサーチクエストの選定
- 第8回 文献・資料・データ等の収集について
- 第9回 分析対象・分析方法について
- 第10回 研究計画の作成
- 第11回 学術論文の書き方
- 第12回 研究計画の確定
- 第13回 先行研究の検討
- 第14回 先行研究の整理と分析
- 第15回 分析対象・分析方法の検討
- 第16回 研究テーマ・リサーチクエストの再考と確認
- 第17回 分析対象・分析方法の整理と確認
- 第18回 中間報告について
- 第19回 中間報告の準備
- 第20回 中間報告の実施
- 第21回 中間報告でのコメントの整理と意見交換
- 第22回 分析対象・分析方法の確認
- 第23回 調査・分析の設計
- 第24回 調査・分析の実施
- 第25回 調査・分析結果の整理
- 第26回 調査・分析結果の報告
- 第27回 最終報告の準備
- 第28回 最終報告の実施
- 第29回 最終報告でのコメントの整理と意見交換
- 第30回 まとめ

## 成績評価の方法 /Assessment Method

報告(中間・最終を含む)50%、議論への参加・貢献50%  
(無断欠席・遅刻は厳禁、度重なる場合には減点対象とします)

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにシラバスを確認し予習しておくこと。授業終了後には論点をまとめ復習すること。

## 履修上の注意 /Remarks

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

随時読むべき文献・参考となる資料や論文を示していく予定ですが、受講生には常日ごろから活字を読む習慣をつけ、様々な問題やその背景を複合的にとらえたいうでの議論ができればと思っています。

## キーワード /Keywords

# 比較政治経済学特別研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1・2学期(バ / Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標  
/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【研究者コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	研究者としての活動の基盤となる、比較政治経済学分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	社会・経済の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	研究者として政策的な観点から説得力のある議論を展開し、比較政治経済学分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較政治経済学特別研究II

授業の概要 /Course Description

比較政治経済、比較政策の分野における修士論文の指導をする。

教科書 /Textbooks

論文作成者の研究分野に合う文献を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○ ) /References ( Available in the library: ○ )

論文作成者の分野が判明するまでなし。

# 比較政治経済学特別研究II 【夜】

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

論文作成者の研究課題に適切な文献のリストを第1回目の指導の際に決め、論文作成者は文献のリビューを即時始める。それがある程度終わった後、研究のためのデータ収集・作成・分析を始め、毎授業で文献、データ、分析について討議する。それがある程度進んだら、同時進行で研究分析を行い、執筆にとりかかる。

1. イントロ
2. 問題定義: 経済成長と平等
3. 成長と平等II ( 応用 )
4. 資本主義経済の諸類型
5. 雇用・失業の様態
6. 雇用・失業の様態II ( 応用 )
7. 雇用保護・解雇規制と雇用
8. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差
9. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II ( 応用 )
10. 福祉政策、所得再分配、経済成長
11. 福祉政策、所得再分配、経済成長II ( 応用 )
12. 福祉国家の縮小とデータ
13. 福祉国家の縮小とデータII ( 応用 )
14. 小括
15. まとめ
16. 導入
17. 問題設定
18. 運営計画策定
19. 報告I
20. 考察、批評、提言I
21. 報告II
22. 考察、批評、提言II
23. 報告II
24. 考察、批評、提言II
25. 報告III
26. 考察、批評、提言III
27. 中間報告
28. 考察、批評、提言
29. 再分析、再考察、最終作業I
30. 再分析、再考察、最終作業II

## 成績評価の方法 /Assessment Method

上記の内容・スケジュールの事柄をどれだけよく遂行しているかによって総合的に判断する。

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記を参照せよ

## 履修上の注意 /Remarks

上記の内容・スケジュールに書かれていることを実行する。

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにがとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

## キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団



# 地域政策特定課題研究II 【夜】

担当者名 榎原 真二 他  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【専修コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	高度専門職業人として活躍するために必要な、地域政策分野の知識を修得する。
技能	○	地域社会の特定の政策的課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を実践的に提言することができる。
態度	◎	高度専門職業人として政策学的な観点から説得力のある議論を展開し、地域政策分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域政策特定課題研究II

授業の概要 /Course Description

地域公共政策、NPO、市民参加等に関する論文(特定課題研究)の指導を行う。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

参考文献は、必要に応じて、適宜紹介する。

## 地域政策特定課題研究II 【夜】

### 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画・内容は、受講生によって異なる。以下はあくまで一つの例として示した授業計画である。

- 第1回 導入
- 第2回 論文作成の基本的作業について
- 第3回 テーマを決める
- 第4回 先行研究の検討
- 第5回 文献リストの作成
- 第6回 リサーチ・クエスチョンをたてる
- 第7回 仮説をたてる
- 第8回 ケース・スタディ(1)-ケース・スタディとは何か
- 第9回 ケース・スタディ(2)-どのような時にケース・スタディを使うのか
- 第10回 ケース・スタディ(3)-政策過程研究とケース・スタディ
- 第11回 ケース・スタディ(4)-まちづくりとケース・スタディ
- 第12回 ケース・スタディ(5)-比較研究とケース・スタディ
- 第13回 ケース・スタディ(6)-公共政策研究とケース・スタディ
- 第14回 ケース・スタディ(7)-ケース・スタディにおけるすぐれた事例研究の検討
- 第15回 1学期のまとめ
  
- 第16回 質的調査と量的調査
- 第17回 質的調査(1)-フィールドワーク
- 第18回 質的調査(2)-聞き取り調査
- 第19回 質的調査(3)-参与観察法
- 第20回 調査票を作成する
- 第21回 サンプルングについて
- 第22回 量的調査の実施と分析方法
- 第23回 クロス表を作成する
- 第24回 統計的検定について
- 第25回 実際に調査を設計する
- 第26回 調査をまとめる
- 第27回 論文の構成について
- 第28回 引用注、参考文献リスト等について
- 第29回 推敲の必要性について
- 第30回 年間講義のまとめ

### 成績評価の方法 /Assessment Method

論文によって評価する。

### 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず、次に発表する部分のレジユメの作成等を行って講義にのぞんでいただきたい。

### 履修上の注意 /Remarks

### 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

### キーワード /Keywords

# 比較政策特定課題研究II 【夜】

担当者名 三宅 博之 他  
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 1・2学期(バ 授業形態 演習 クラス 1年  
/Year /Credits /Semester ア) /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
										○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標

/Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

【専修コース（政策科学系）】

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	△	実践指向型市民、NPO職員や公務員としての活動の基盤となる、様々な政策の比較・分析といった分野についての高度な専門的知識を修得する。
技能	○	特定の諸課題について、必要な情報を収集・分析し、政策を立案し評価することができる。
態度	◎	高度専門職業人として政策学的な観点から議論を展開し、様々な政策の比較・分析といった分野について専門的かつ主体的に研究することができる。

※ ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較政策特定課題研究II

## 授業の概要 /Course Description

比較政策分野を対象に、修士課程の集大成として修士論文もしくは特定課題論文執筆の指導を行う。具体的には、テーマの設定の仕方、調査方法、参加型学習法、章構成の作り方、結論への導き方などの指導を重点的に行う。それにより、課題発見・追求能力、論理構成力や論文作成能力が醸成される。

## 教科書 /Textbooks

- \* 小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社新書、2009年、720円
- \* その他 その都度指示・配布する

## 参考書(図書館蔵書には ○) /References ( Available in the library: ○ )

必要に応じてその都度配布する予定。

## 授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- |   |                             |
|---|-----------------------------|
| 第1回 比較政策についての議論を得たのちに、修士論文もしくは特定課題論文についての説明 |                             |
| 第2回 修論の説明（テーマ設定）                            | 第3回 修論の説明（ねらいについて）          |
| 第4回 修論の説明（調査方法：文献調査）                        | 第5回 修論の説明（調査方法：面接調査）        |
| 第6回 修論の説明（調査方法：標本調査）                        | 第7回 標本調査の分析について             |
| 第8回 修論の説明（章構成と論旨）                           | 第9回 修論の説明（注記について）           |
| 第10回 修論の説明（参考文献について）                        | 第11回 進捗状況の発表（はじめに）          |
| 第12回 進捗状況の発表（1章前半）                          | 第13回 進捗状況の発表（1章後半）          |
| 第14回 進捗状況の発表（2章前半）                          | 第15回 進捗状況の発表（2章後半）          |
| 第16回 進捗状況の発表（3章前半）                          | 第17回 進捗状況の発表（3章後半）          |
| 第18回 進捗状況の発表（4章前半）                          | 第19回 進捗状況の発表（4章後半）          |
| 第20回 進捗状況の発表（5章前半）                          | 第21回 進捗状況の発表（5章後半）          |
| 第22回 進捗状況の発表（おわりに）                          | 第23回 全体構成の再確認（注記、参考文献含む）    |
| 第24回 修論原稿の再発表（はじめにと1章）                      | 第25回 修論原稿の再発表（2章）           |
| 第26回 修論原稿の再発表（3章）                           | 第27回 修論原稿の再発表（4章）           |
| 第28回 修論原稿の再発表（5章）                           | 第29回 修論原稿の再発表（おわりに、注記と参考文献） |
| 第30回 まとめ                                    |                             |

## 成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...50% 論文内容（論理構成力、分析力など）...50%

## 事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各指導担当教員と話し合い、修士論文、特定課題論文に必要な資料を収集しておき、関連する文献を読んでおくこと、事後学習は授業で習ったことを自ら整理して、論文作成に生かすこと。

## 履修上の注意 /Remarks

調査方法は非常に重要なので、様々な文献を読んだりして、できるだけ事前に身に付けておくこと。

## 担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

比較政策分野で修士論文や特定課題論文を書く際は、調査方法をできるだけ多岐にして実態を把握する努力をしてください。

# 比較政策特定課題研究II 【夜】

## キーワード /Keywords

比較政策 修士論文 特定課題論文 参加型調査手法 フィールド(現場)